

証券コード6859

エスペック株式会社

2025年度(2026年3月期)決算説明

2026年5月25日
代表取締役社長 荒田 知

P. 2～20	2025年度 通期実績について
P.21～30	2026年度 業績予想について
P.31～40	中期経営計画の見直しについて

- 参考資料
- ・会社紹介・事業概要
 - ・サステナビリティの取り組み

2025年度決算ポイント

■2025年度通期業績

- ・中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」(2025～2027年度)を発表
- ・受注高・売上高は、ターゲット市場(AI半導体、衛星通信)を中心に好調、過去最高を更新
- ・利益面は、中国市場および受託試験サービスの収益悪化、販管費の増加により減益、中期経営計画の目標を修正

■2026年度業績予想

- ・中計の修正目標達成に向けて重要な1年とし、受注高は高水準を維持、売上高・営業利益は過去最高、増収増益を目指す。成長戦略を着実に実行するとともに財務戦略を強化し、「資本コストや株価を意識した経営」を実行
- ・中東情勢緊迫化による影響については、世界経済減速懸念はあるが、現時点では直接的な影響は限定的と見ている。今後の影響については予想困難であり引き続き注視していく

■中期経営計画の見直し

- ・2025年度通期業績、戦略の進捗をふまえ、当初計画から売上高は上方修正、利益面は下方修正を行うが、さまざまな改善を行い、営業利益率12%(過去最高)を着実に達成する。将来を見据えた「筋肉質で持続可能な高利益体質の確立」を推進していく
- ・ROEは、財務資本戦略を強化し、12.0%以上を据え置く

2025年度 通期実績について

2025年度通期 決算概要

- ・受注高は、AI半導体分野は日本、東南アジア、台湾にて堅調、衛星通信分野は北米にて大幅に拡大。前期・修正予想を上回り、過去最高を更新
- ・売上高は、日本、北米、東南アジアが好調に推移し、前期・修正予想を上回り、過去最高を更新
- ・営業利益は、カスタム製品の利益率改善は進んだものの、中国市場および受託試験の収益悪化、販管費の増加により、前期・修正予想を下回る

	前期比		修正予想比(2025年11月13日修正)	
受注高	○	装置事業(環境試験器)とその他事業が増加、サービス事業(受託試験)が減少	○	装置事業(環境試験器)とその他事業が上回る、サービス事業(受託試験)は下回る
売上高	○	装置事業(環境試験器は前期並み、半導体関連装置が増加)とその他事業が増加、サービス事業は受託試験が減少し前期並み	○	装置事業とその他事業は上回る、サービス事業は主に受託試験が下回る
営業利益	×	装置事業は増収も販管費増加により前期並み、サービス事業は受託試験の減収、減価償却費増加により減少、その他事業は増加	×	装置事業は主に中国市場の収益悪化、販管費増加により下回る、サービス事業は主に受託試験の売上高不足により下回る、その他事業は上回る
親会社株主に帰属する当期純利益	△	投資有価証券売却益を計上も、受託試験設備の減損損失計上により前期を下回る	○	投資有価証券売却益の計上により予想通り

■ 株主還元 配当予想: 中間45円、期末70円、年間115円 配当性向42.5%

実施中の自社株買い: 2025年11月14日～2026年7月31日、上限90万株(発行済株式総数の4.05%)、上限35億円

→2025年度は55万株、約19億円実施 総還元性向75.3%

損益の状況

(百万円)	2024年度 実績	2025年度 期初予想	2025年度 修正予想 (2025年11月修正)	2025年度 実績	前期比	期初予想比	修正予想比
受注高	67,514	66,000	69,000	72,596	+7.5%	+10.0%	+5.2%
売上高	67,288	68,000	68,000	70,034	+4.1%	+3.0%	+3.0%
売上原価	43,300	42,600	43,800	45,739	+5.6%	+7.4%	+4.4%
原価率	64.4%	62.6%	64.4%	65.3%	+0.9pt	+2.7pt	+0.9pt
売上総利益	23,987	25,400	24,200	24,295	+1.3%	△4.4%	+0.4%
利益率	35.6%	37.4%	35.6%	34.7%	△0.9pt	△2.7pt	△0.9pt
販管費	16,460	16,900	16,600	17,210	+4.6%	+1.8%	+3.7%
営業利益	7,526	8,500	7,600	7,084	△5.9%	△16.7%	△6.8%
利益率	11.2%	12.5%	11.2%	10.1%	△1.1pt	△2.4pt	△1.1pt
経常利益	7,793	8,650	7,750	7,473	△4.1%	△13.6%	△3.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,003	6,190	5,800	5,879	△2.1%	△5.0%	+1.4%
ROE	11.0%	11.0%	10.0%	10.0%	△1.0pt	△1.0pt	±0pt

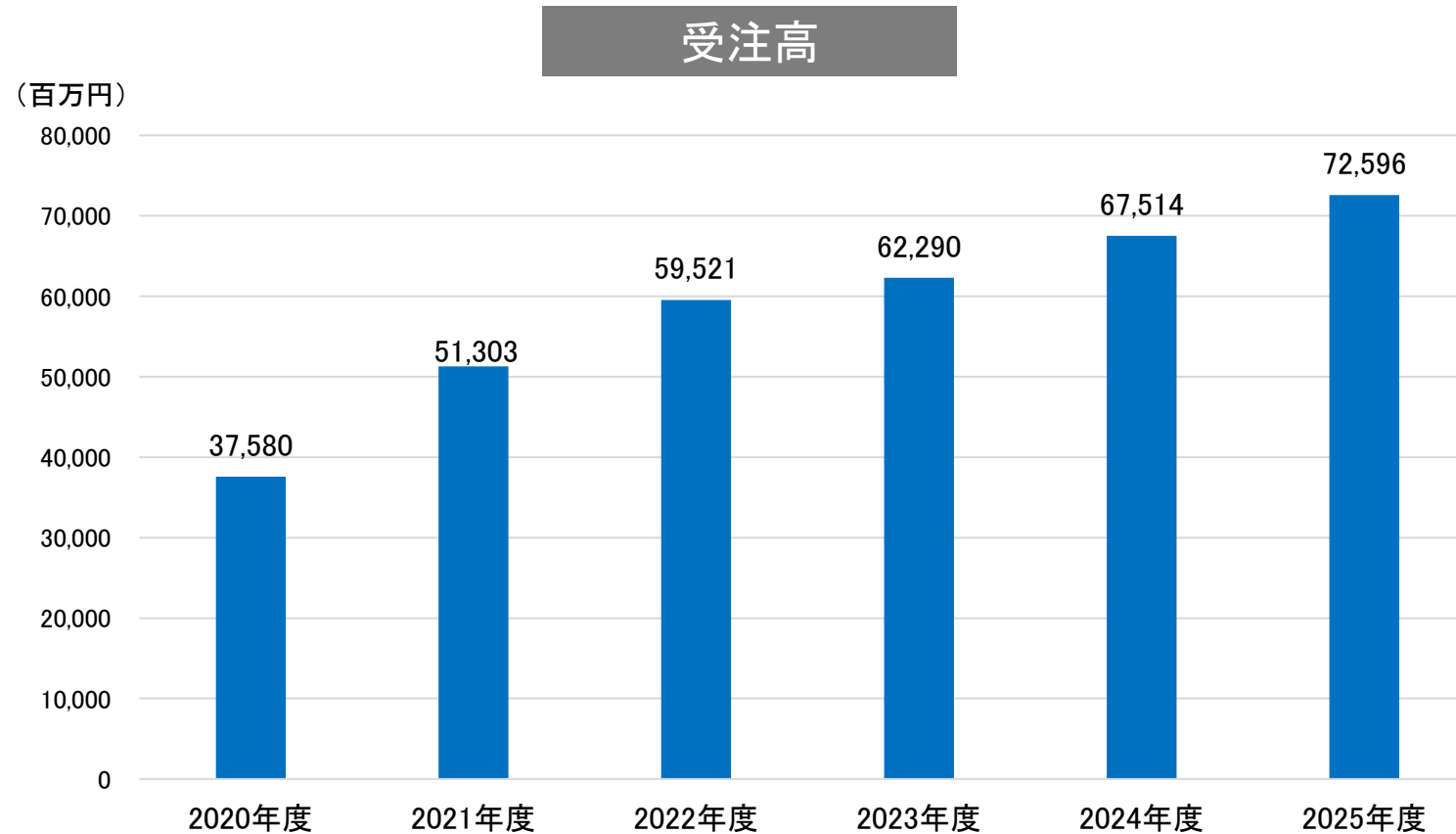
セグメント別損益の状況

		2024年度 実績	2025年度 期初予想	2025年度 修正予想 (2025年11月修正)	2025年度 実績	前期比	期初予想比	修正予想比
装置事業	受注高	57,283	55,500	58,640	62,216	+8.6%	+12.1%	+6.1%
	売上高	57,507	57,600	57,560	59,468	+3.4%	+3.2%	+3.3%
	営業利益	6,610	7,340	6,980	6,606	△0.1%	△10.0%	△5.3%
サービス事業	受注高	8,532	9,200	8,520	8,294	△2.8%	△9.8%	△2.6%
	売上高	8,425	9,200	8,640	8,327	△1.2%	△9.5%	△3.6%
	営業利益	793	1,080	500	228	△71.2%	△78.9%	△54.4%
その他事業	受注高	2,170	1,800	2,340	2,529	+16.5%	+40.5%	+8.1%
	売上高	1,758	1,700	2,300	2,747	+56.3%	+61.6%	+19.4%
	営業利益	126	80	120	239	+88.7%	+198.9%	+99.7%
連結消去	受注高	△472	△500	△500	△442	-	-	-
	売上高	△403	△500	△500	△507	-	-	-
	営業利益	△4	0	0	10	-	-	-
計	受注高	67,514	66,000	69,000	72,596	+7.5%	+10.0%	+5.2%
	売上高	67,288	68,000	68,000	70,034	+4.1%	+3.0%	+3.0%
	営業利益	7,526	8,500	7,600	7,084	△5.9%	△16.7%	△6.8%

2025年度実績 受注高について

■ 受注高は、5期連続で過去最高更新

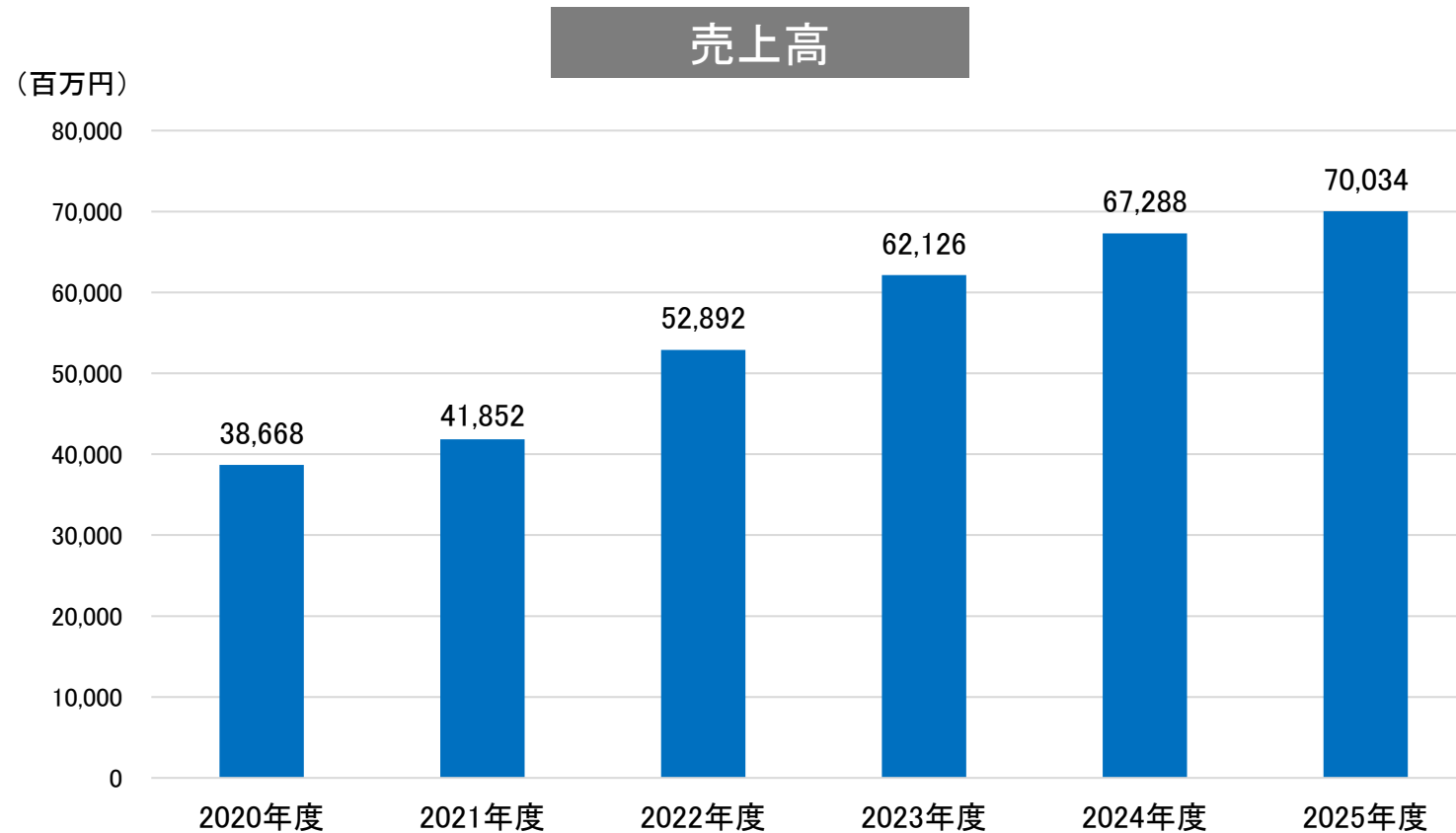
北米・東南アジア・台湾が増加、中国・欧州は横ばい、日本・韓国は減少



2025年度実績 売上高について

■ 売上高は、4期連続で過去最高更新

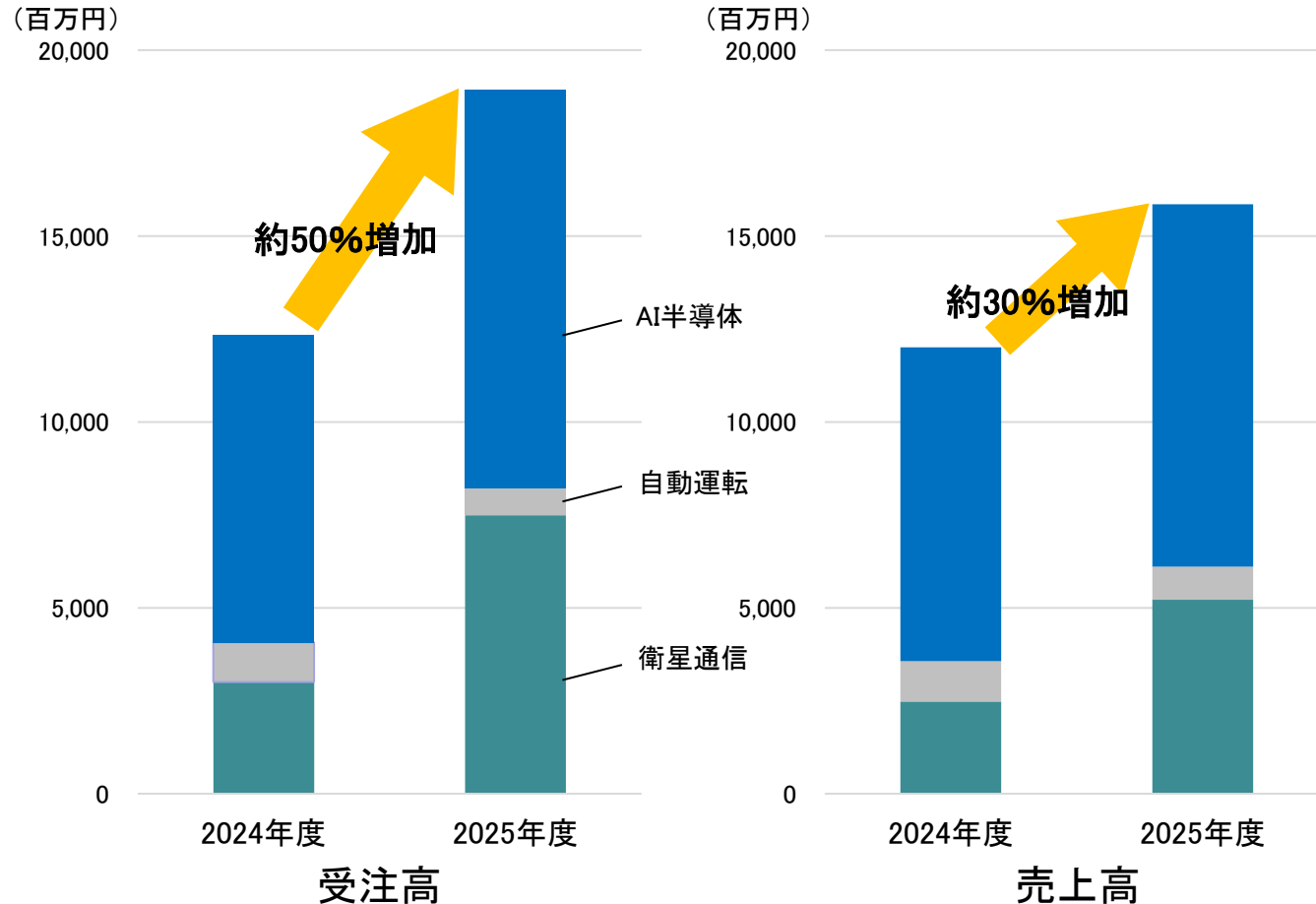
日本・北米・東南アジア・台湾が増加、中国は横ばい、欧州・韓国は減少



2025年度 ターゲット市場の開拓状況

■ ターゲット市場 (AI半導体、自動運転、衛星通信) の受注高は約50%増加、売上高は約30%増加

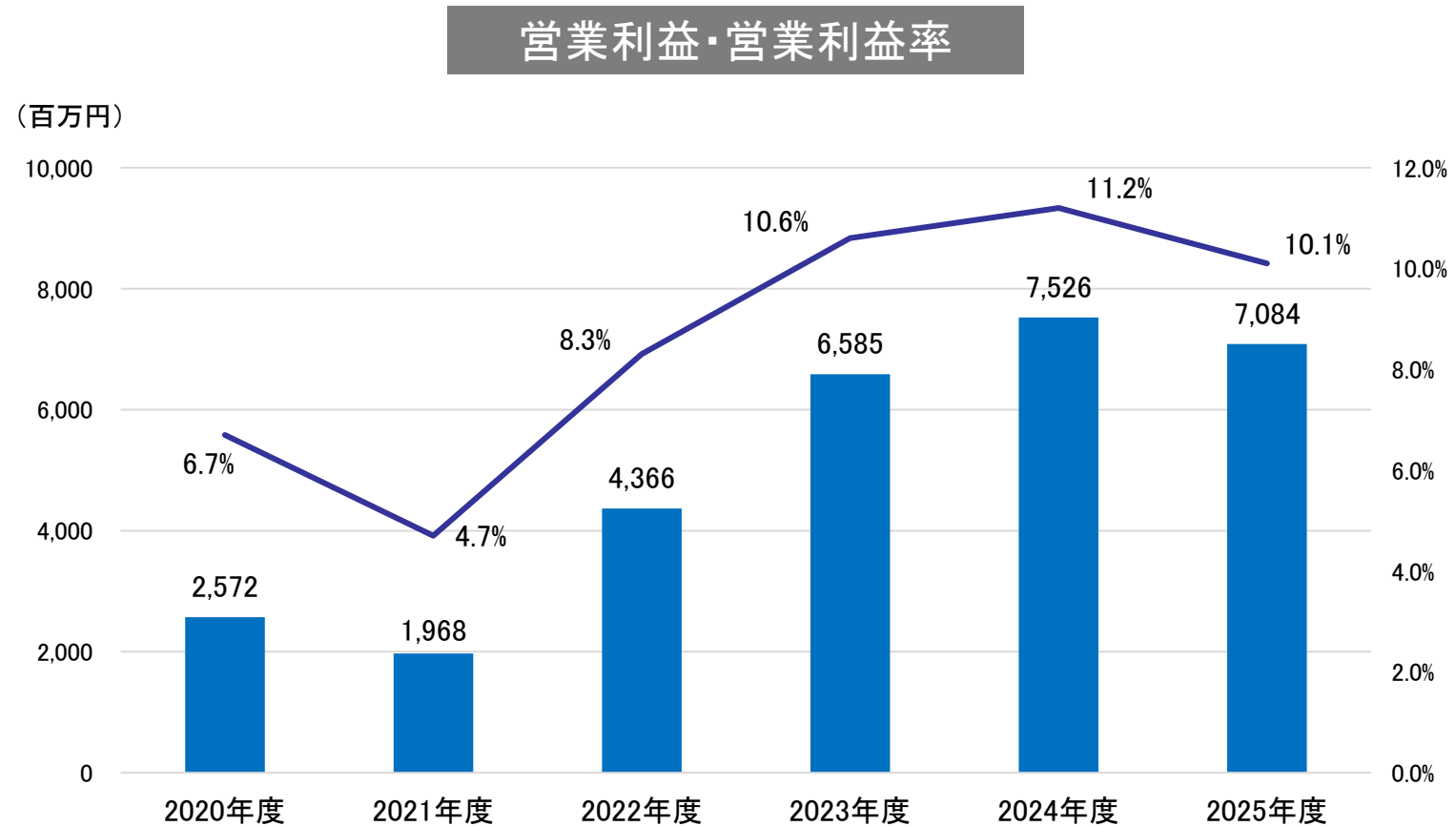
AI半導体は日本、東南アジア、台湾が増加、衛星通信は北米にて大幅に増加、自動運転は大きな変動なし



	試験対象	提供製品
AI半導体分野	AIサーバー 半導体 電子部品 (HDD,SSDなど) 電子材料	恒温恒湿器・恒温恒湿室 ハイパワー恒温恒湿器 急速温度変化チャンバー 冷熱衝撃装置 高度加速寿命試験装置 HDD検査装置 バーンインチャンバー 計測システム
自動運転分野	統合ECU センシングデバイス	恒温恒湿器・恒温恒湿室 ハイパワー恒温恒湿器 小型環境試験器 冷熱衝撃装置
衛星通信分野	低軌道衛星(LEO) 人工衛星搭載部品	HALT試験装置 恒温恒湿器・恒温恒湿室 恒圧恒温恒湿器 ハイパワー恒温恒湿器 冷熱衝撃装置 小型環境試験器

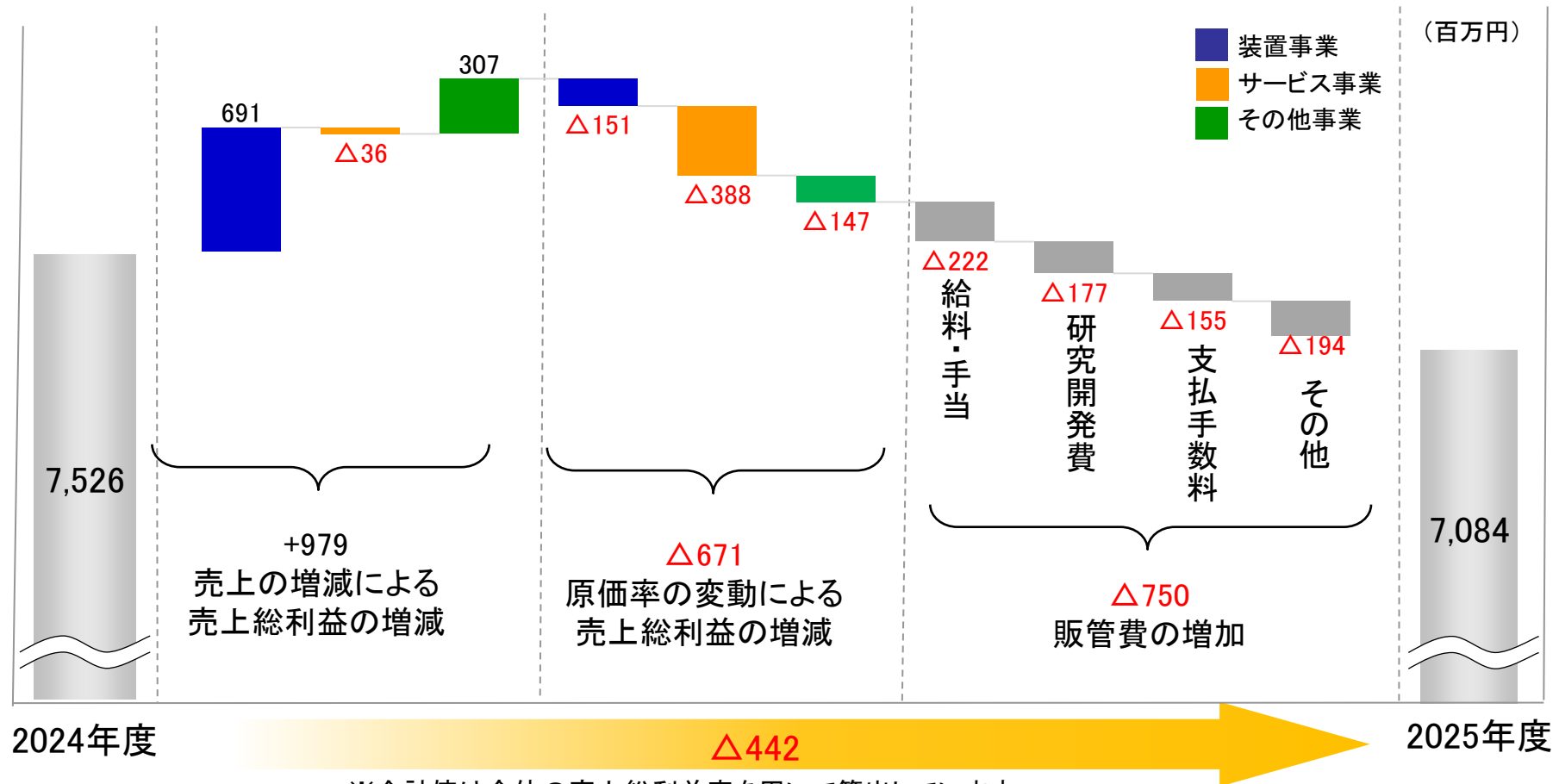
2025年度実績 営業利益・営業利益率について

- 営業利益は、増収効果はあったものの、原価率悪化と販管費の増加により減少、営業利益率が低下



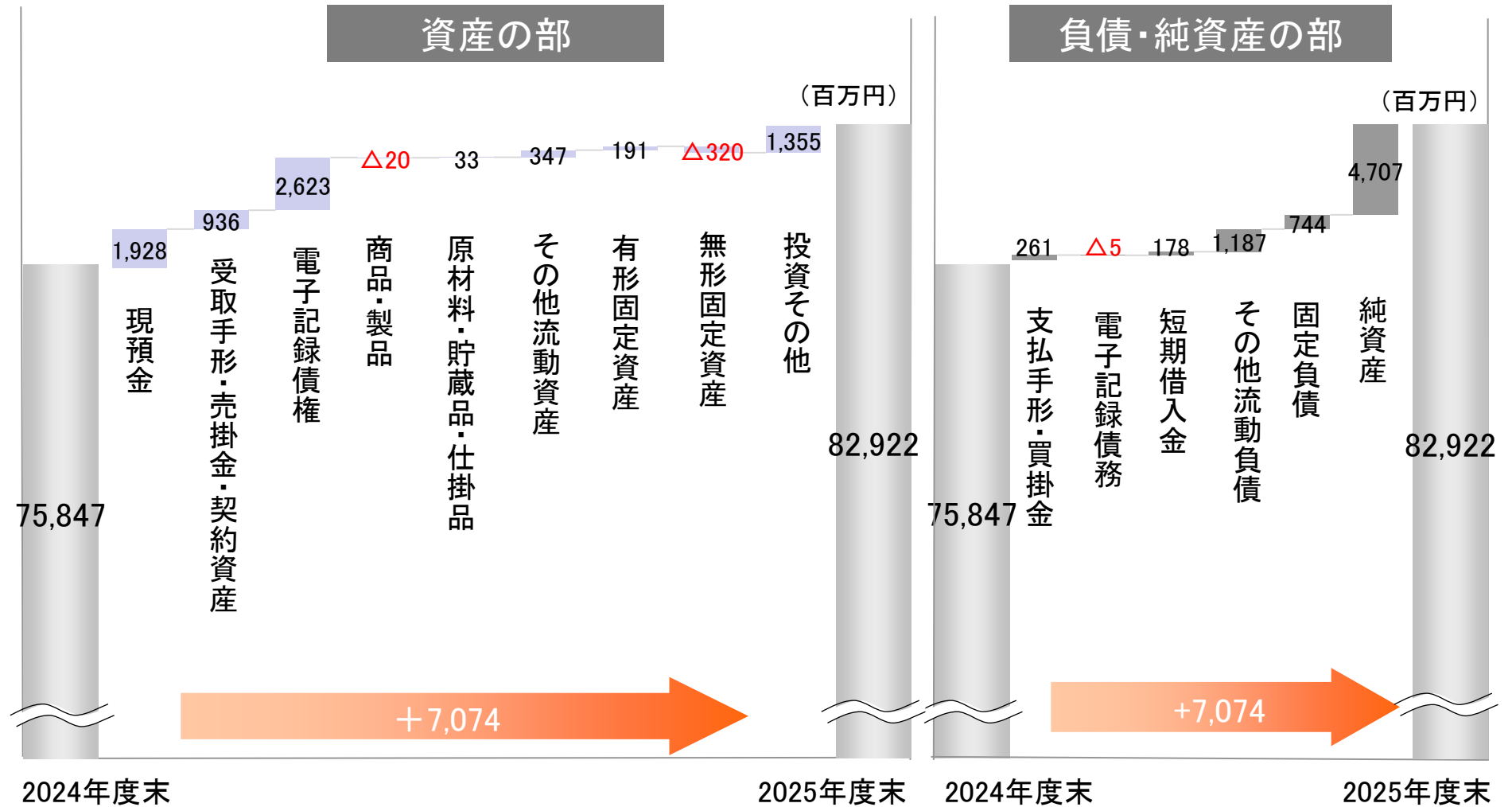
営業利益の増減要因分析

- ・装置事業は、増収効果およびカスタム製品の収益性改善効果はあったが、中国市場のデフレ経済の影響による競争激化により収益が悪化
- ・サービス事業は、受託試験の減収および減価償却費の増加により減益
- ・受注高の伸長、商品価値向上に向けた研究開発費の拡大により、販管費が増加



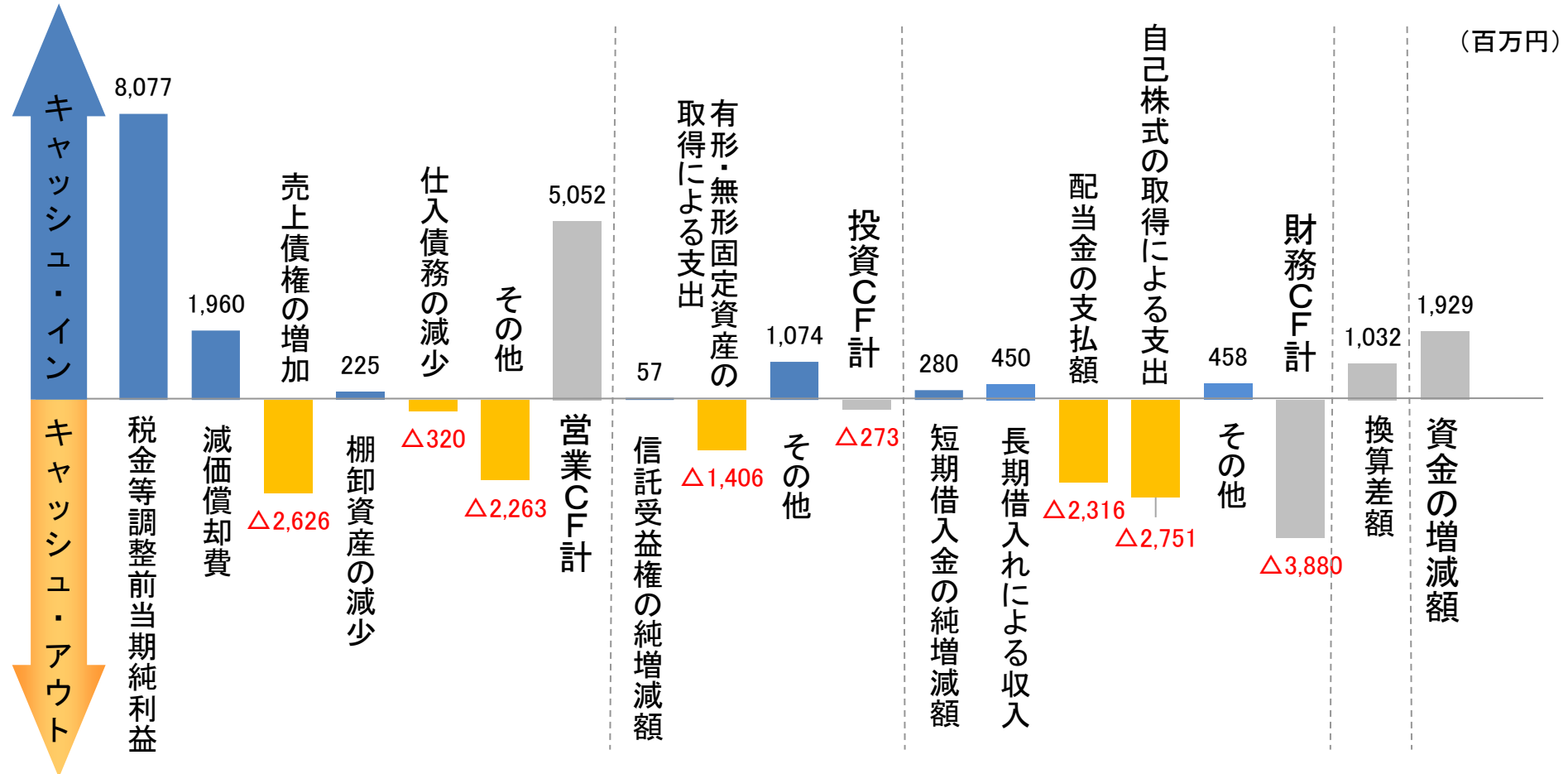
資産・負債の状況

■ 売上拡大に伴う売上債権の増加、現預金の増加に加え、保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加などにより、総資産は約70億円増加



キャッシュフローの状況

- ・営業CFは、税金等調整前当期純利益や、売上高増加に伴う売上債権増加による支出などにより、50億円のキャッシュイン
- ・投資CFは、固定資産取得による支出や、投資有価証券売却による収入などにより、2.7億円のキャッシュアウト
- ・財務CFは、主に配当金の支払いと自己株式取得により38億円のキャッシュアウト、資金は約19億円増加



装置事業セグメント

(百万円)	2024年度 実績	2025年度 期初予想	2025年度 修正予想	2025年度 実績	前期比	期初 予想比	修正 予想比
受注高	57,283	55,500	58,640	62,216	+8.6%	+12.1%	+6.1%
売上高	57,507	57,600	57,560	59,468	+3.4%	+3.2%	+3.3%
営業利益	6,610	7,340	6,980	6,606	△0.1%	△10.0%	△5.3%
利益率	11.5%	12.7%	12.1%	11.1%	△0.4pt	△1.6pt	△1.0pt

環境試験器

- 国内では、EV・バッテリー向け投資の減速により前期比で受注高・売上高ともに減少
- 海外では、北米、東南アジアの受注高が前期比で大幅に増加したが、大型製品や複数台一括といった長納期案件が多かったことに加え、欧州、韓国の経済減速に伴う販売減少により、売上高は前期並み
なお、中国はデフレ経済の影響による競争激化はあったものの、受注高・売上高は前期並み

エネルギーデバイス装置

- EVバッテリー向け投資の減速により前期比で受注高・売上高ともに減少

半導体関連装置

- 受注高は前期比で減少したが、売上高はAIサーバー用電子部品向け一括案件の売上計上により大幅に増加

サービス事業セグメント

アフターサービスにて技術料の見直しを行い、収益性改善に取り組んだが、
受託試験サービスの減収および減価償却費の増加により減益、利益率も大きく低下

(百万円)	2024年度 実績	2025年度 期初予想	2025年度 修正予想	2025年度 実績	前期比	期初予想比	修正予想比
受注高	8,532	9,200	8,520	8,294	△2.8%	△9.8%	△2.6%
売上高	8,425	9,200	8,640	8,327	△1.2%	△9.5%	△3.6%
営業利益	793	1,080	500	228	△71.2%	△78.9%	△54.4%
利益率	9.4%	11.7%	5.8%	2.7%	△6.7pt	△9.0pt	△3.1pt

アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、前期比で受注高・売上高ともに増加

受託試験・レンタル

- 受託試験サービスにおいて、EV需要減速に伴う顧客の投資抑制や開発計画変更の影響を受け、前期比で受注高・売上高ともに減少

その他事業セグメント

(百万円)	2024年度 実績	2025年度 期初予想	2025年度 修正予想	2025年度 実績	前期比	期初予想比	修正予想比
受注高	2,170	1,800	2,340	2,529	+16.5%	+40.5%	+8.1%
売上高	1,758	1,700	2,300	2,747	+56.3%	+61.6%	+19.4%
営業利益	126	80	120	239	+88.7%	+198.9%	+99.7%
利益率	7.2%	4.7%	5.2%	8.7%	+1.5pt	+4.0pt	+3.5pt

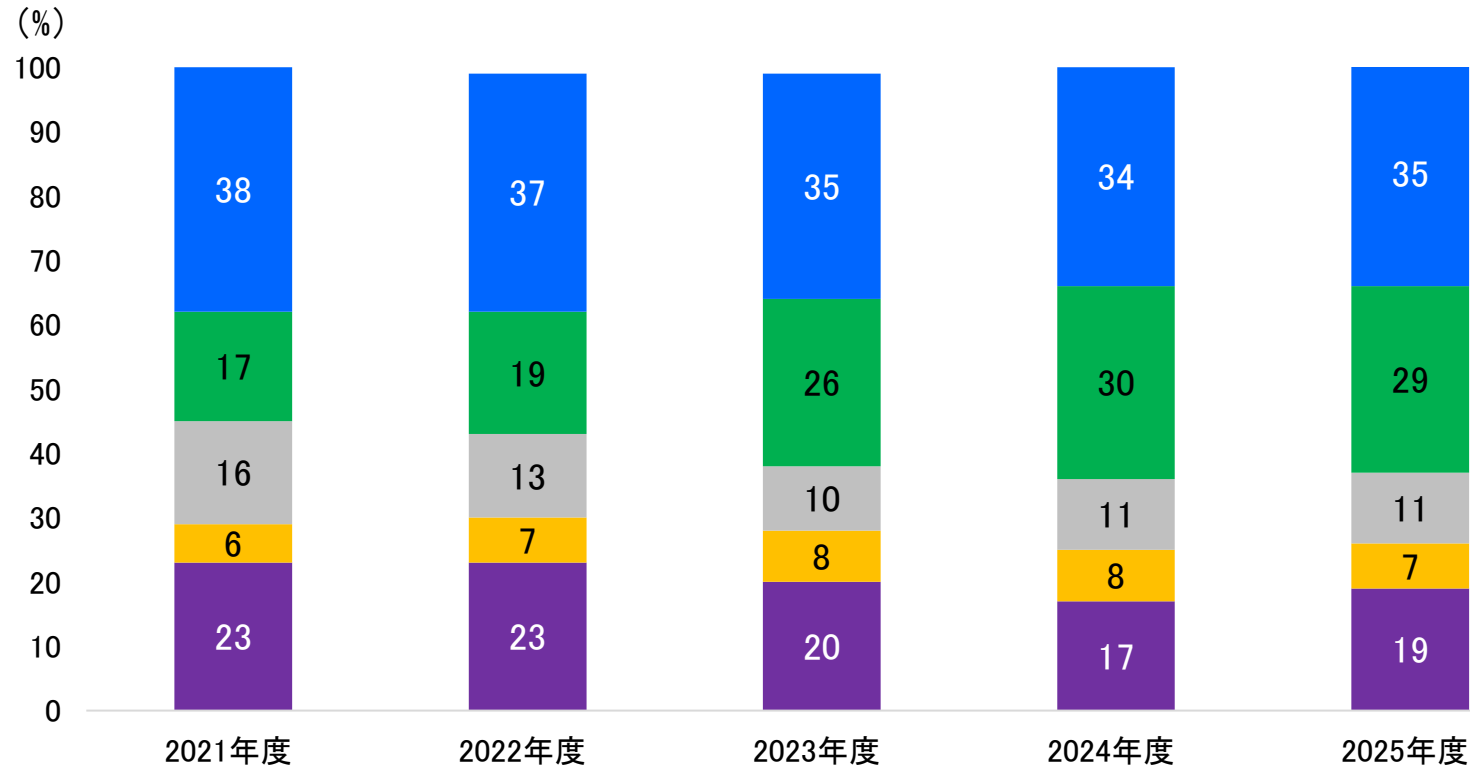
環境保全・植物育成装置

- 植物工場の大型案件の受注を獲得するとともに、緑地の改修工事に関する案件を獲得し、前期比で受注高・売上高ともに増加

市場別売上構成比

- 電子部品・電子機器市場は、AI半導体関連の試験需要が堅調に推移し、構成比が上昇
- 自動車市場は、前期受注のEV・バッテリー関連の売上計上により前期並みの構成比を維持

単体(装置事業)



<ターゲット市場との関連>

- ・AI半導体
→ 電子部品・電子機器、半導体市場
- ・自動運転
→ 自動車市場
- ・衛星通信
→ 電子部品・電子機器市場

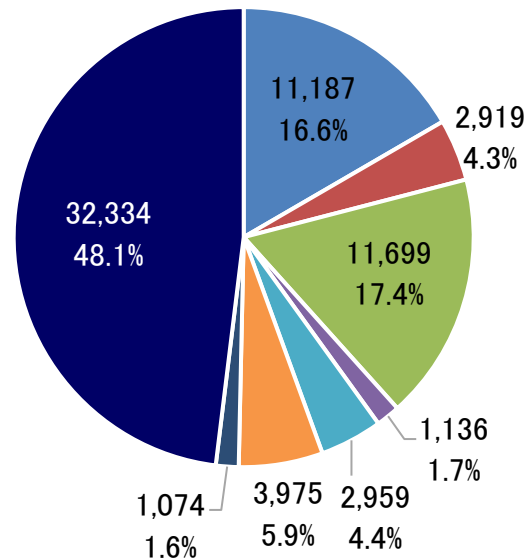
- 電子部品・電子機器市場
- 自動車市場
- 半導体市場
- 研究機関市場
- その他市場

地域別売上構成比

■ 売上高は日本、北米、東南アジア・インド、台湾が増加、中国は前期並みを確保

2024年度

海外売上高比率: 51.9%



計 67,288百万円

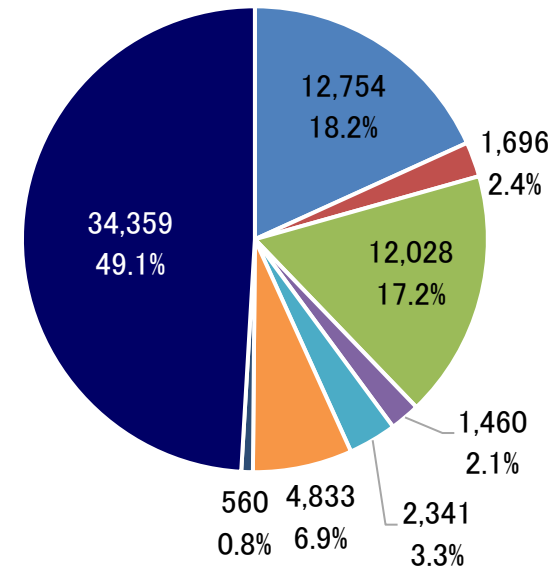
海外: 34,953百万円

国内: 32,334百万円

2025年度

海外売上高比率: 50.9%

- 北米
- 欧州
- 中国
- 台湾
- 韓国
- 東南アジア・インド
- その他
- 日本



計 70,034百万円

海外: 35,675百万円

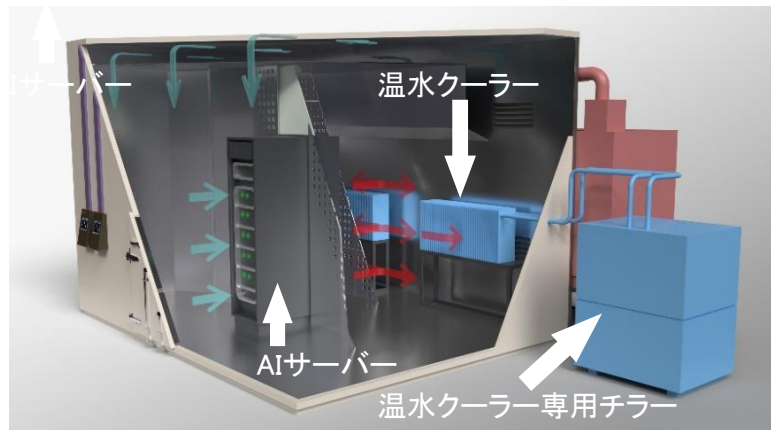
国内: 34,359百万円

AIサーバー市場向け新製品

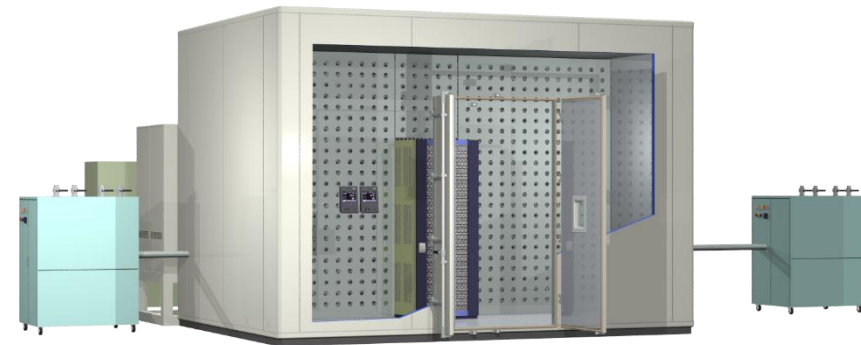
■高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー

- ・2025年12月、AIサーバーの信頼性評価用として、高発熱負荷に対応した2機種を発売
- ・サーバーによる発熱負荷(30kW、60kW)に対し、独自の制御システムにより精密な温湿度制御を実現
- ・サーバーの信頼性評価に適用される試験規格ASHRAEに適合した試験が可能

<AIサーバーの試験イメージ>



新たに開発した空調システムにより、省エネ・省スペース化を実現



高発熱負荷対応
恒温恒湿室ウォークインチャンバー

AI半導体・自動運転市場向け新製品

■ 高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER) EHS-222M-L

- ・2025年10月、高度加速寿命試験装置に、大型基板の試験に対応したモデル(EHS-222M-L)をラインアップ
- ・一度の試験で大量の試料を評価することが可能
- ・電子部品等の開発期間短縮と高信頼性の確保に貢献



高度加速寿命試験装置
EHS-222M-L

■ 急速温度変化チャンバー TCC-151W-20

- ・2025年4月、急速温度変化チャンバーに試料温度を20°C/分で制御可能なハイパフォーマンスモデルをラインアップ
- ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
- ・低GWP※冷媒「R-449A」を標準搭載

※GWP:地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない



急速温度変化チャンバー
TCC-151W-20

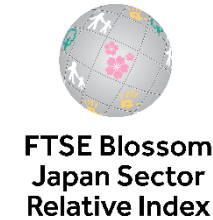
社外からの評価

■ ESG関連の評価

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で6年連続「Bスコア」、水セキュリティは2年連続「B-スコア」
「サプライヤーエンゲージメント評価」では、4年連続最高評価の
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- ・神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞
- ・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得
- ・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

- ・「Gomez IRサイトランキング」銀賞(業種別5位)
- ・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業
- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト



2026年度 業績予想について

2026年度業績予想の考え方について

- ・中計の修正目標達成に向けて重要な1年と認識し、受注高は高水準を維持、売上高・営業利益は過去最高、増収増益を目指す
- ・ターゲット市場のさらなる開拓、新製品開発、生産の高効率化を進めるとともに、中国市場および受託試験サービスの収益改善を図る
- ・財務戦略を強化し、「資本コストや株価を意識した経営」を実行する

■中東情勢悪化による影響について

- ・中東情勢の緊迫化による世界経済減速を懸念しているが、現時点では、部材価格高騰による直接的な影響は限定的と見ている
- ・部材価格高騰に対しては、価格転嫁も想定し、動向を注視していく
- ・今後の影響については予想困難であり、引き続き注視し、適切に対応していく
- ・なお、受注動向としては足元では影響を受けていない

＜生産におけるリスクと対策＞

- ・不足する部材(製品構成部品、製造設備のメンテナンス等で使用する部材)については、生産停止回避のため、在庫確保や代替品を探すなどの対応を始めている。これにより一時的な在庫の増加が見込まれる

2026年度業績予想

	2025年度	2026年度予想			
	(百万円) 通期実績	上期	下期	通期	前期比
受注高	72,596	35,800	34,200	70,000	△3.6%
売上高	70,034	33,800	39,200	73,000	+4.2%
売上総利益 利益率	24,295 34.7%	12,150 35.9%	14,250 36.4%	26,400 36.2%	+8.7% +1.5pt
販管費 販管費率	17,210 24.6%	9,000 26.6%	9,400 24.0%	18,400 25.2%	+6.9% +0.6pt
営業利益 利益率	7,084 10.1%	3,150 9.3%	4,850 12.4%	8,000 11.0%	+12.9% +0.9pt
経常利益 利益率	7,473 10.7%	3,250 9.6%	4,850 12.4%	8,100 11.1%	+8.4% +0.4pt
親会社株主に帰属する当期純利益 利益率	5,879 8.4%	2,300 6.8%	3,580 9.1%	5,880 8.1%	+0.0% △0.3pt
1株当たり当期純利益(円)	270.39	107.63	167.54	275.17	+1.8%
ROE	10.0%	—	—	10.0%	±0pt

2026年度 セグメント別の業績予想

		2025年度	2026年度予想			
		(百万円) 通期実績	上期	下期	通期	前期比
装置事業	受注高	62,216	30,700	28,750	59,450	△4.4%
	売上高	59,468	29,350	33,200	62,550	+5.2%
	営業利益	6,606	3,010	4,060	7,070	+7.0%
	利益率	11.1%	10.3%	12.2%	11.3%	+0.2pt
サービス事業	受注高	8,294	4,500	4,700	9,200	+10.9%
	売上高	8,327	4,070	5,080	9,150	+9.9%
	営業利益	228	190	650	840	+268.0%
	利益率	2.7%	4.7%	12.8%	9.2%	+6.5pt
その他事業	受注高	2,529	850	1,050	1,900	△24.9%
	売上高	2,747	630	1,220	1,850	△32.7%
	営業利益	239	△50	140	90	△62.4%
	利益率	8.7%	△7.9%	11.5%	4.9%	△3.8pt
連結消去	受注高	△442	△250	△300	△550	—
	売上高	△507	△250	△300	△550	—
	営業利益	10	0	0	0	—
計	受注高	72,596	35,800	34,200	70,000	△3.6%
	売上高	70,034	33,800	39,200	73,000	+4.2%
	営業利益	7,084	3,150	4,850	8,000	+12.9%
	利益率	10.1%	9.3%	12.4%	11.0%	+0.9pt

2026年度 環境認識

中計ターゲット市場のAI半導体、衛星通信を中心にグローバルに開拓を進める

装置事業	環境試験器	<p>日本 : AI半導体は堅調、EV・バッテリーは減少</p> <p>中国 : 半導体・エレクトロニクスは堅調</p> <p>東南アジア : 半導体・エレクトロニクスが好調</p> <p>インド : 自動車、半導体が堅調</p> <p>北米 : 衛星通信を中心に好調</p> <p>欧州 : 航空宇宙、車載半導体を中心に回復基調</p>
	エネルギーデバイス装置	EVバッテリー向け投資が低調
	半導体関連装置	汎用メモリ半導体向けは低調だが、 先端半導体(CPU、GPU、HBMなど)向けは堅調
サービス事業	アフターサービス 受託試験・レンタル	<p>アフターサービス : 保守契約拡販により堅調</p> <p>受託試験 : EVバッテリーは低調、 EVバッテリー以外の電動化・自動運転モジュール、航空機器は堅調</p>
その他事業	環境保全 植物育成装置	植物研究用装置など植物育成装置が堅調

2026年度 想定為替レート

■ 想定為替レート

	2024年度	2025年度		2026年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USD(円)	152.62	146.03	150.67	155
ユーロ(円)	163.87	168.05	174.64	180
元(円)	21.11	20.29	21.22	22

2026年度為替感応度

(百万円)

	売上高	営業利益
USD	+97	+14
ユーロ	+15	+8
元	+50	+6

※1円円安(元は0.1円)変動時の影響

2026年度 投資計画

(百万円)	2025年度	2026年度 予想			
	通期実績	上期	下期	通期	前期比
設備投資額	2,004	1,390	2,530	3,920	+95.5%
減価償却費	1,957	1,000	1,080	2,080	+6.3%
研究開発費	1,521	1,060	1,010	2,070	+36.1%

主な投資内容

- ・福知山工場リノベーション
- ・北米子会社生産エリア拡張

主な開発内容

- ・AI半導体分野向け製品ラインアップ拡充
(主力製品のモデルチェンジ、機種追加)
- ・環境配慮型製品の拡充

株主還元方針と2026年度配当予想

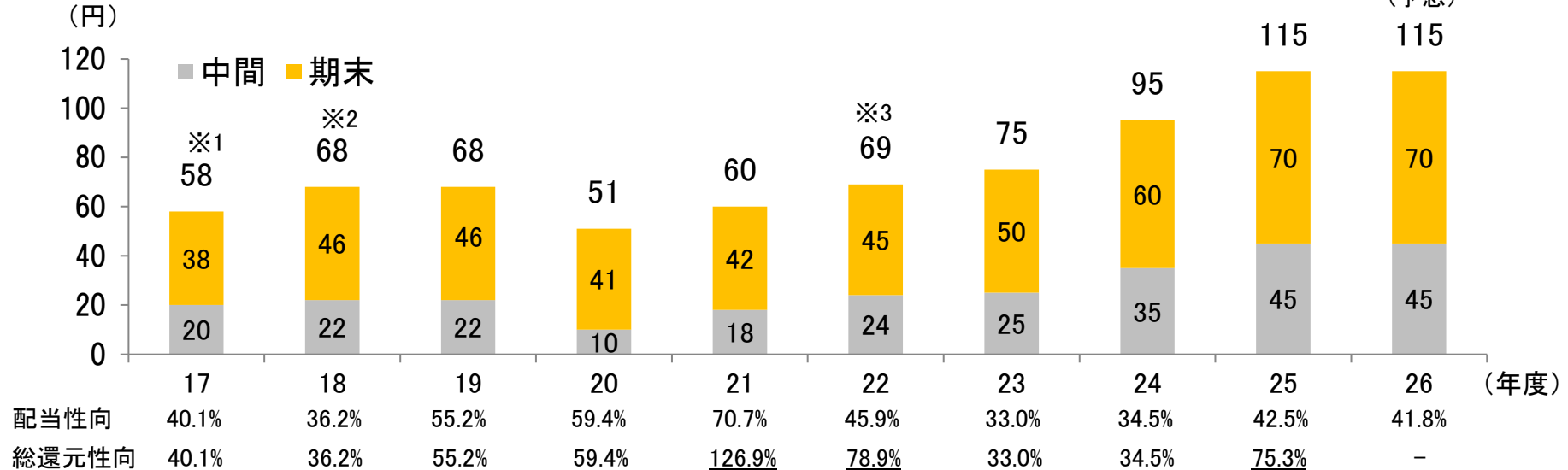
株主還元方針

配当性を40%以上とし自己株式取得を機動的に実施

中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」(2025~2027年度)の期間は、3年間累計で総還元性を50%以上とし減配しない

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向

2026年度は年間115円、配当性向41.8%を予想



(下線部は自社株買いを実施)

※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算(12ヵ月とした場合)の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

2026年度 主な取り組み

装置事業

- ・グローバル市場における新規ニーズの探索と事業機会の獲得
- ・試験要求に適合した高付加価値製品の開発、市場投入
- ・カスタマイズ容易性向上による製品リードタイム短縮

サービス事業

アフターサービス：保守契約サービスの拡販、稼働率改善による原価低減

受託試験：電動化・自動運転モジュール、航空機器関連の受注獲得、収益改善

エリア戦略

日本：AI半導体、衛星通信分野の営業活動強化、買い替え需要の獲得

北米：衛星通信分野の販売強化、生産能力増強による収益拡大

中国：半導体、電子部品・電子機器分野への販売強化

2026年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画 Plus II (2026～2027年度)の推進
地球温暖化対策の強化、生物多様性保全の推進、資源循環の推進と化学物質管理の強化、
開示情報の充実(CDP、TCFD、TNFD)

■S(社会)

- ・ビジョン実現型人事制度の定着、インターナルコミュニケーションの推進
- ・ワークシェア制度の導入、健康経営の推進
- ・経営補佐職層向け株式報酬制度の運用開始

■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化
- ・サプライチェーンリスク対策
- ・リスクマネジメントの強化

中期経営計画の見直しについて

中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」の目標見直し

	2027年度 当初目標	2027年度 修正目標	差異	修正の理由
売上高	700億円	760億円	+60億円	売上高は、AI半導体、衛星通信を中心にターゲット市場の開拓が順調。 北米の衛星通信分野、東南アジアのAI半導体分野の売上拡大、インド市場の開拓、中国市場・欧州市場の売上回復を見込む
営業利益	105億円	91億円	△14億円	<ul style="list-style-type: none"> ・北米の急激な受注拡大に向けた生産能力増強投資による収益への影響 ・中国市場、受託試験サービスの収益改善遅れ ・成長戦略「商品価値の向上」「モノづくりの高効率化」の効果発現時期の遅れ 営業利益率は、まずは過去最高水準(2018年度11.6%)である12%に着実に到達し、「筋肉質で持続可能な高利益体質の確立」へとつなげる
営業利益率	15.0%	12.0%	△3.0pt	
当期純利益	76億円	67億円	△9億円	
ROE	12.0%以上	12.0%以上	変更なし	財務資本戦略をさらに強化し、当初目標「12.0%以上」を据え置く

※想定レート(米ドル)は、145円から155円に変更

事業セグメント別目標の見直し

(百万円)		2027年度 当初目標	2027年度 修正目標	差異
売上高	装置事業	58,550	65,050	+6,500
	サービス事業	10,200	9,650	△550
	その他事業	1,800	1,900	+100
	消去	△ 550	△ 600	△50
	計	70,000	76,000	+6,000
営業利益 利益率	装置事業	8,910 15.2%	7,720 11.9%	△1,190 △3.3pt
	サービス事業	1,500 14.7%	1,250 13.0%	△250 △1.7pt
	その他事業	90 5.0%	130 6.8%	+40 +1.8pt
	消去	0	0	—
	計	10,500 15.0%	9,100 12.0%	△1,400 △3.0pt

装置事業 成長戦略の進捗

	2025年度の評価		課題・今後の取り組み
ターゲット市場の開拓 (AI半導体、自動運転、 衛星通信)	○	2025年度受注高は前期比+50%と大幅に増加。 AI半導体は主に日本、東南アジア、台湾にて 堅調(+30%)、衛星通信は主に北米にて大幅増 (+150%)。自動運転は大きな変動なし	グローバルに需要拡大が見込まれる AI半導体分野向け新製品の投入、 衛星通信分野向け新製品の投入
カスタム製品の 収益性改善	○	2025年度はリピート効果もあり、標準製品並みに 改善	新ニーズ受注獲得、リピート確保による 収益向上
新製品・モデルチェンジ による商品価値の向上	△	2025年度はAI半導体分野向け製品を発売するも、 製品開発・市場投入計画に遅れ	製品開発計画の実行、市場投入
モノづくりの高効率化 (内製化、リードタイム短縮)	△	2025年度は福知山工場リノベーション計画を策 定したが、稼働は2027年度後半	福知山工場リノベーション計画の実行、 売上総利益率改善、製品リードタイム 短縮

サービス事業 成長戦略の進捗

	2025年度の評価		課題・今後の取り組み
受託試験の売上拡大	×	2025年度は、EV需要減速に伴う顧客の投資抑制や開発計画変更により減収。 また、減価償却費の増加により収益が悪化。 減損損失の計上により、2026年度以降の減価償却費が低減	堅調な分野での受注獲得 (電動化・自動化モジュール、航空機器)
アフターサービスの 高効率な事業への変革	△	2025年度は10月に技術料の見直しを実施し、 今後は収益性改善見込	予防保全サービス(スーパーサポートプラン) の拡大、稼働率向上による生産性向上

グローバル戦略の進捗

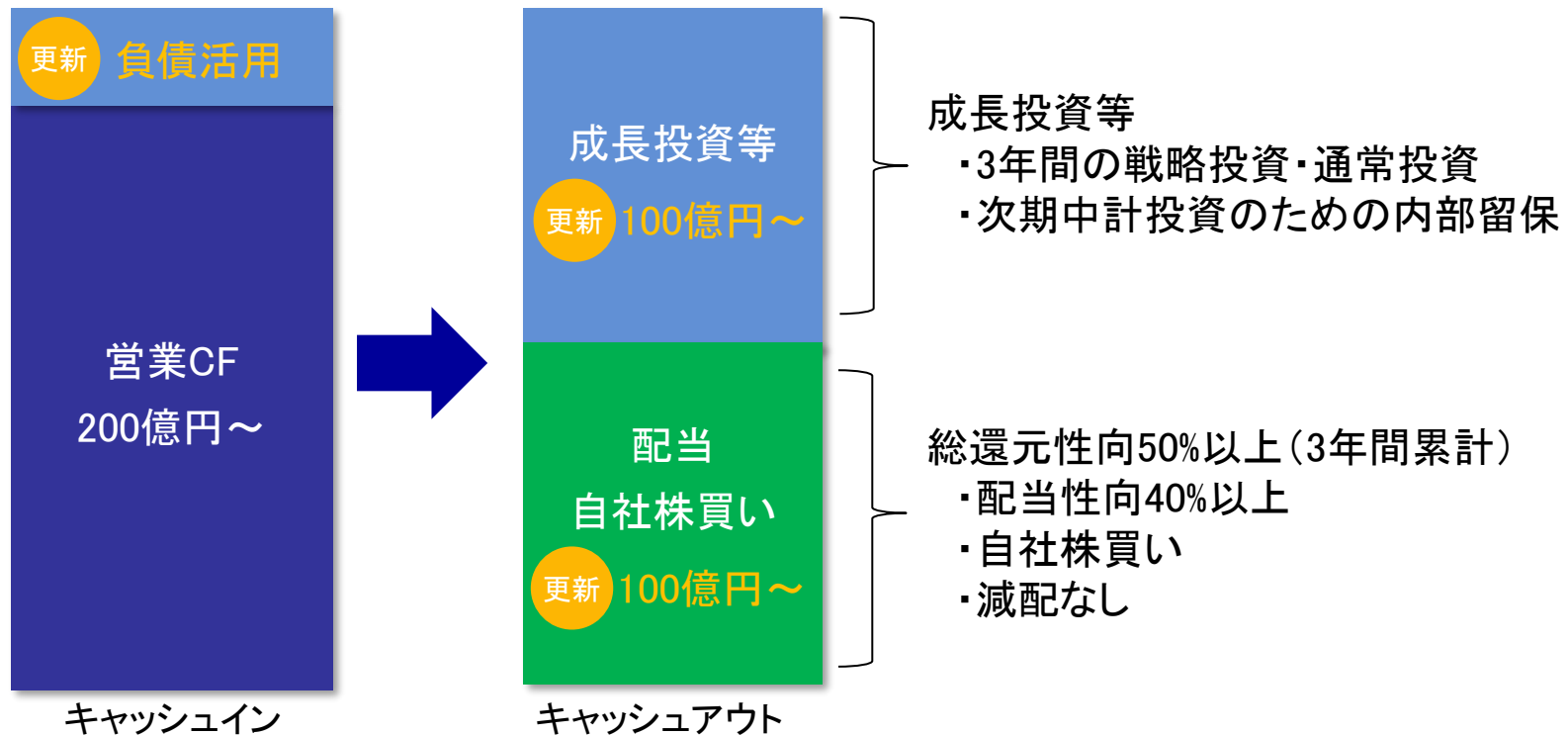
	2025年度の評価		課題・今後の取り組み
日本	○	自動車分野は減少も、ターゲットとするAI半導体分野は堅調	AI半導体分野を中心とする新製品投入、モノづくり高効率化の推進
北米	○	衛星通信分野を中心に受注が大幅に拡大	生産能力増強、製品リードタイム短縮
中国	×	ローカルメーカーとの競争激化により、受注・売上は維持したが収益性が悪化	「シェア確保重視」を方針とし、国産半導体分野への製品投入やカスタム対応力、サービス力によりシェアを堅持
韓国	×	関税影響による経済減速により減少	AI半導体分野での受注獲得、製品リードタイム短縮
東南アジア	○	AI半導体分野を中心に、日系および海外資本(米・韓・中)の顧客からの受注が拡大	新規顧客開拓(半導体・自動車分野)、サービス力による差別化
インド	○	半導体、自動車(4輪、2輪)分野を中心に受注拡大	2026年度中にサービス拠点を設立、サービス力による差別化
台湾	○	ローカルメーカーとの競争が厳しいエリアであるが、AIサーバー向け製品を発売、受注を獲得	競争力のある製品開発、製品リードタイム短縮
欧州	×	環境規制対応製品の投入遅れ	自動車以外(航空宇宙・半導体分野)の開拓、環境規制対応製品のラインアップ拡充

キャッシュ・アロケーション(2025~2027年度)の更新

キャッシュ・アロケーション方針

3年間で創出したキャッシュを成長投資と株主還元積極的に配分する

資本効率を重視し、成長投資や企業価値向上に向けて必要に応じて負債を活用する
株主還元として自社株買いについても機動的に判断し、実施する



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針の更新(財務資本戦略の強化)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針を更新

<2026年5月14日開示>

財務資本戦略強化により資本収益性を高め、中計目標2027年度ROE12%以上の達成を目指す

方針

※下線は2026年5月更新内容

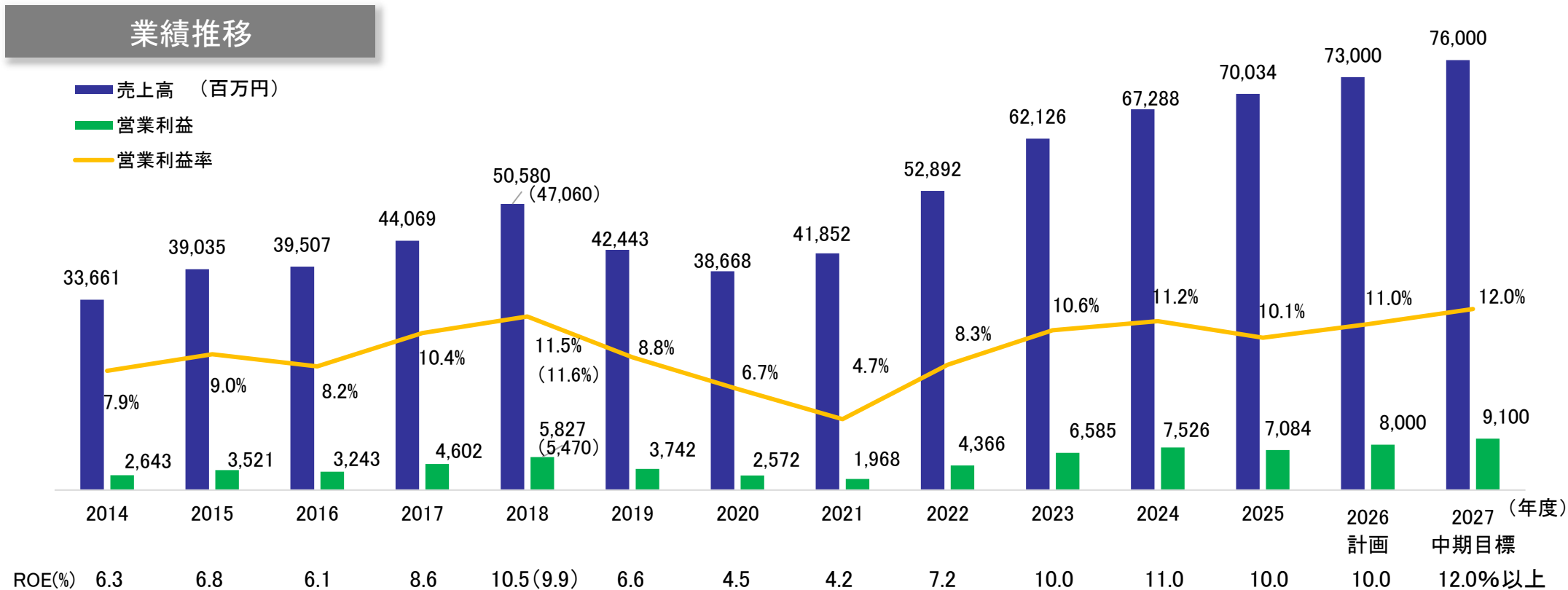
- ・中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」の2027年度目標(売上高760億円、営業利益91億円、営業利益率12.0%、当期純利益67億円、ROE12.0%以上)の達成を目指す
- ・営業利益率の向上と総資産の効率化によるキャッシュの創出と必要に応じた負債の活用
- ・資本効率を重視したBSマネジメントとして、自己資本比率70%以内、手元流動性3カ月以内を指標とし、資本をコントロールする
- ・3年間のキャッシュアロケーション方針に基づき、成長投資と株主還元を積極的に行う

主な取り組み

- | | |
|---------------|-----------------------------------------------------------|
| ①収益性の向上 | AI半導体や自動運転、衛星通信分野をターゲットとした成長戦略の実行、収益力の強化 |
| ②財務戦略
株主還元 | 棚卸資産の適正化と売上債権の圧縮、資本のコントロール
株主還元方針(P.28)に基づく積極的な株主還元の実施 |
| ③IR活動の強化 | 株式市場での評価向上および経営強化に向けた株主・投資家との対話充実 |

業績推移

エスペックグループ全体の収益改善を推し進めるとともに、資本効率性の向上を図り、「筋肉質で持続可能な高利益体質の確立」を目指してまいります



※ 2018年度は海外連結会社の決算期間が15ヵ月の変則決算、()は海外連結会社の決算対象期間が12ヵ月であった場合の参考値

参考資料

会社紹介・事業概要

2026年5月25日
エスペック株式会社

会社概要

[環境試験器の世界トップメーカー]

会社名	エスペック 株式会社
本社住所	大阪市 北区 天神橋 3-5-6
代表者	代表取締役社長 荒田 知 (あらた さとし)
創業年月日	1947年(昭和22年)7月25日
設立年月日	1954年(昭和29年)1月13日
資本金	6,895百万円
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,898名(連結)
事業内容	環境試験器、エネルギーデバイス装置、半導体関連装置、 植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など



本社

環境試験器シェア

世界30%以上 国内60%以上 ※シェアは当社推定

(2026年3月31日現在)

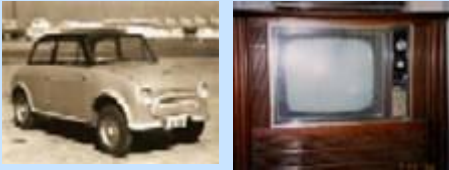
環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代>

日本で民生品の環境試験が
JIS規格化



<1970年代～1990年代>

「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要なテーマとなり、
電子化・電装化の加速に伴い需要が飛躍的に拡大



<現在>

デジタル化、脱炭素化を背景にAI・IoTや
次世代自動車の開発分野での需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



低温恒温恒湿器 ルシファー



世界シェア No.1

経産省「グローバルニッチトップ企業100選」を連続受賞
(2013年度、2020年度)

国内シェア
60%以上

世界シェア
30%以上

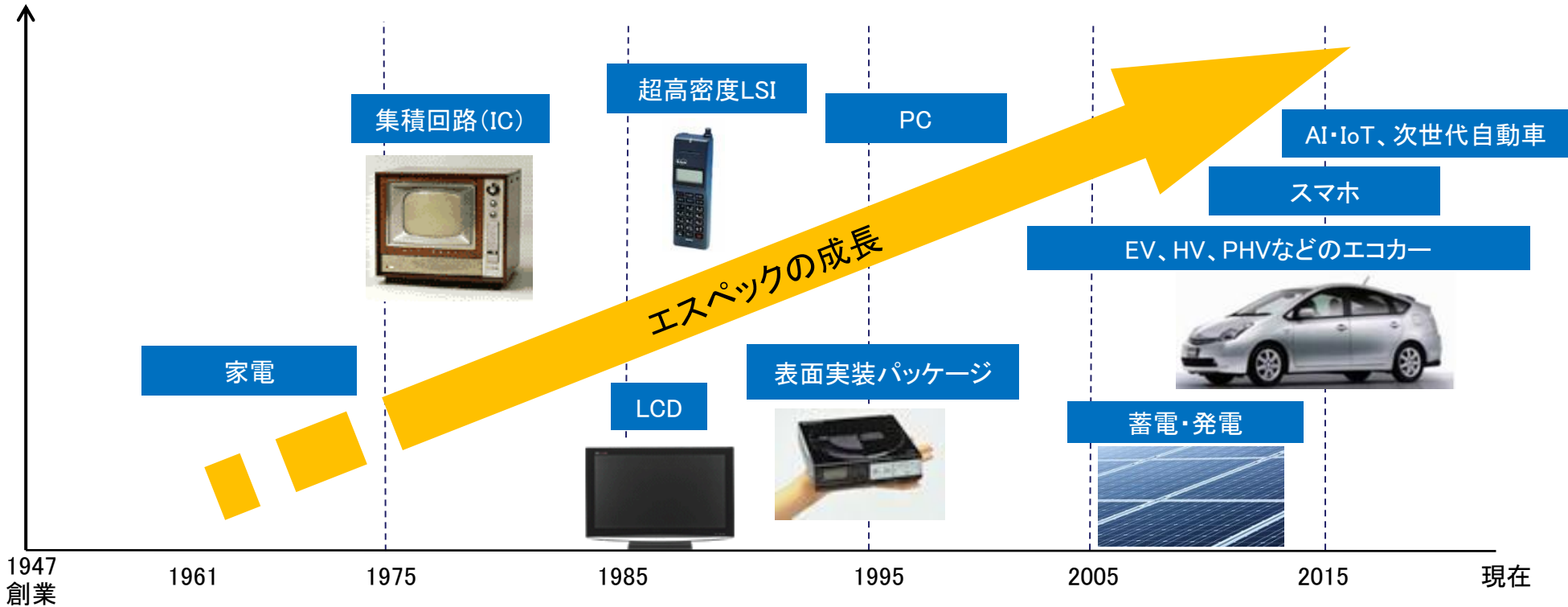
※シェアは当社推定



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

事業の変遷

環境試験器で培った「環境創造技術」を軸に事業を拡大



事業の拡大

1961年
環境試験器開発



1982年
半導体試験装置
事業参入



1986年
FPD装置事業参入



1994年
計測システム事業
参入



2011年
電池専用装置事業
参入



2015年
バッテリー安全
認証ビジネス開始



事業概要(各事業の市場／用途)

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2025年度	
装置事業	環境試験器	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 ・HASTチャンバー 	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・HALT試験装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・衛星通信 ・医薬品、食品等 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D 7割 ・信頼性評価 2割 ・生産、検査 1割 	
	エナジーデバイス装置	<ul style="list-style-type: none"> ・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産 		
	半導体関連装置	<ul style="list-style-type: none"> ・バーンイン装置 ・計測システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体 ・電子部品 ・自動車 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査 		
サービス事業	アフターサービスエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・修理・予防保全 ・点検・校正 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器周辺工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・航空機器 	—	
	受託試験レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・受託試験 ・リセール 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器レンタル ・校正 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 		
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化				
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など				

事業概要: 装置事業

先端技術の発展を支える環境試験の総合ソリューションを提供

環境試験器

国内シェア60%以上 世界シェア30%以上

電子部品、電子機器、自動車、半導体、衛星通信、医薬品、食品など幅広い分野において、先端技術開発・信頼性評価・生産・検査工程を支える製品を提供

温度、湿度、圧力の範囲や、温度変化速度、大きさなどに応じて、多彩なラインアップをそろえている



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ



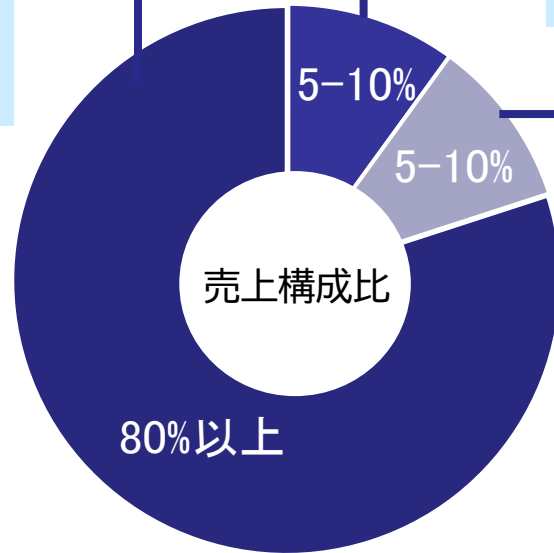
冷熱衝撃装置



恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー



小型環境試験器



半導体関連装置

半導体検査工程において良品・不良品を選別するバーンイン装置、半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システムを提供



計測評価システム



バーンインチャンバー

エネルギーデバイス装置

二次電池の性能や寿命の評価を行う二次電池充放電サイクル評価装置、安全性評価装置や、燃料電池評価装置を提供



二次電池充放電評価システム



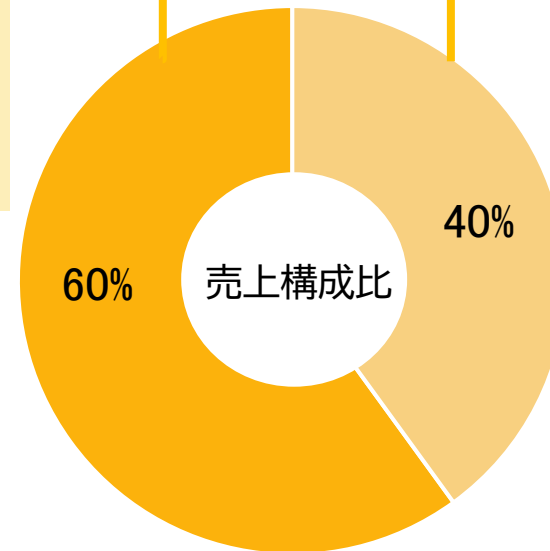
充放電専用恒温槽

事業概要：サービス事業

お客さまのお困りごとを解決するサービスを提供、
各種規格に応じたお客さまの試験をトータルにサポート

アフターサービス・エンジニアリング

- ・お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう製品のメンテナンスや予防保全を実施
- ・設置・移設、周辺工事、周辺機器の販売を行う
- ・クラウドを活用したネットワークサービスを提供



受託試験・レンタル

- ・各業界特有の評価ニーズに最適なソリューションを提案し、当社試験所にて顧客の環境試験を代行
- ・環境試験器のレンタル・リセールおよび計測機器の校正サービスを行う

■受託試験の試験領域：

- ・自動車
- ・航空・eVTOL(電動垂直離着陸機)
- ・半導体 等
- ・二次電池
- ・電子部品、電子機器



国内5カ所(宇都宮・常滑・豊田・刈谷・神戸)
中国2カ所(上海・蘇州)、タイ1カ所に試験所を設置



国内の試験所で実施する受託試験は
100%再生可能エネルギーで提供

事業概要：その他事業

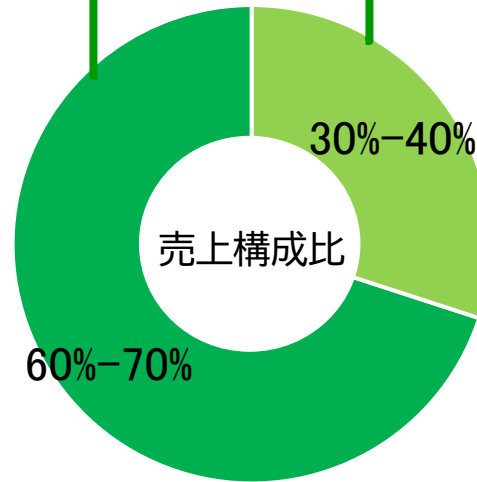
植物育成装置

光や温湿度、養分などを管理する植物工場や研究用育苗装置を提供



環境保全

地域の在来種にこだわった森づくりや水辺づくり



エスペックの強み

トップシェア

- ・シェアは世界30%以上、国内60%以上（当社推定）
- ・国内で初めて環境試験器を開発し早期に国内外でブランドを確立、トップシェアを長年保持

技術力 製品・サービス力

- ・高品質かつ顧客の要望に応じた多種多様な製品を開発
- ・多品種少量生産を可能とする生産技術力
- ・製品はじめ受託試験やテクニカルサポートなど環境試験のトータルソリューション、アフターサービス力

グローバル体制

- ・充実したグローバルネットワークで各国のニーズに適合した製品をグローバルに提供

連結子会社 : 13社（海外9社、国内4社）
海外生産拠点 : 北米1社、中国2社、韓国1社
海外ネットワーク : 50カ所（国・地域）44社

グローバルネットワーク

連結子会社 13社
(海外9社、国内4社)

海外ネットワーク
50カ所(国・地域)44社

国内営業・サービス拠点 16カ所
国内代理店 46社

欧州

- ESPEC EUROPE GmbH
- △ ESPEC IKLIM KABINLERI SATIS VE MUHENDISLIK LIMITED SIRKETI

アジア

- 上海愛斯佩克環境設備有限公司 ※
- 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
- 愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司 ※
- 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
- ESPEC(CHINA)LIMITED
- ESPEC KOREA CORP. ※
- ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
- △ ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

米国

- ESPEC NORTH AMERICA, INC. ※

日本

- エスペック(株) ※
- エスペックアシスト(株)
- エスペックミック(株)
- エスペックサーマルテックシステム(株) ※
- コスモピアハイテック(株) ※

- 印・・・連結子会社
- △印・・・非連結子会社

※は生産機能を持つ会社

【装置事業/サービス事業】全天候型試験ラボの紹介(神戸R&Dセンター内)

世界初「全天候型試験ラボ」をオープン オープンイノベーションを推進し環境創造技術を強化(2021年3月)

7つの環境因子(温度・湿度・雪・霧・雨・光・風)を高精度に制御・可変し、動的気象環境(刻々と変化する気象環境)を再現

■ 全天候型試験ラボ



試験室 幅6m×奥行9m×高さ3m
光の乱反射を抑える黒色コーティング

■ 動的気象環境における試験例



① みぞれ→雪への変化を再現する試験

水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0°C前後での降雪も可能。雪質と温度を制御し、みぞれから雪への変化を再現。着雪が課題となっている自動運転用センサーの性能を確認できる。

② 雨→霧への変化を再現する試験

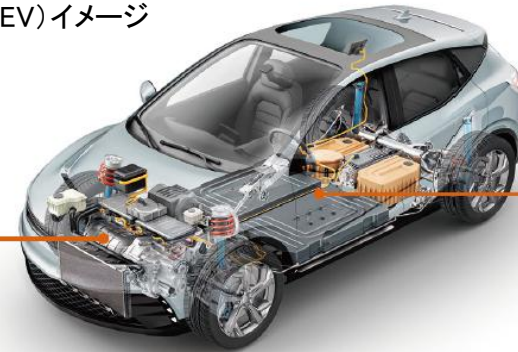
霧の濃さと温湿度を制御し、雨から霧への変化も再現。霧の影響を受ける自動運転用センサーの性能を確認できる。

【装置事業】環境試験器の用途事例

電気自動車(EV)イメージ

部品・モジュール・完成品単位で繰り返し試験を実施し、新技術・新製品の信頼性を確保

車載部品・電装品
 ・ ECU
 ・ インバーター
 ・ コンバーター
 ・ センサー
 ・ モーター
 など



車載用バッテリー
 ・ リチウムイオン電池
 ・ 全固体電池
 など

環境試験の代表例

デバイス	プロセス/試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■ 冷熱衝撃試験 : -40°C ⇄ +125°C	冷熱衝撃装置
		■ 高温放置 : +175°C、+85°C	(小型)オープン
		■ バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■ 基板の温度サイクル試験 : -40°C ⇄ +110°C	低温恒温器(プラチナス)/オープン
		■ はんだ付け後の温度特性試験 : -30°C ⇄ +85°Cをリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
【CCD/CMOS】 	生産	■ 拡散試験 : +150°C	小型オープン
		■ 洗浄後の乾燥 : +85°C	クリーンオープン
	評価	■ スクリーニング : +85°C	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
	検査	■ 温湿度試験 : +85°C / +85%rh、+60°C / 90%rh	恒温恒湿器(プラチナス)
		■ 加速試験 : +120°C / 100%rh	HASTチャンバー
■ 冷熱衝撃試験 : -40°C ⇄ +125°C、-20°C ⇄ +85°C	冷熱衝撃装置		

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2025年12月	高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・AIサーバーの高発熱負荷に対応 ・サーバーの信頼性評価試験規格ASHRAEに適合
2025年10月	高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER) 大型基板対応モデル	<ul style="list-style-type: none"> ・AI半導体・自動運転分野の試験需要に対応 ・一度の試験で大量の試料を評価可能、試験効率を向上
2025年4月	超低温ショックフリーザー	<ul style="list-style-type: none"> ・超低温-70℃の急速冷凍で生鮮食品の鮮度を保持 ・食品の冷凍、保存、解凍、再加熱までの工程を自動で完結
2025年4月	急速温度変化チャンバー ハイパフォーマンスモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・試料温度を20℃/分で勾配制御可能 ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
2025年1月	受託計測サービスを拡充 (熱変形計測サービス・熱画像解析サービス)	<ul style="list-style-type: none"> ・熱変形計測システム:リフロー炉の温度環境(最大260℃)、大型基板サイズに対応 ・熱画像解析システム:高速・高精度の熱画像解析を実現
2024年11月	低GWP※冷媒「R-449A」搭載 低温恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ ECOタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減
2024年10月	低GWP※冷媒「R-473A」「R-449A」搭載 急速温度変化装置 プレミアムエクセレントシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社であるコスモピアハイテックが発売 ・国際的な試験規格に適合した急速温度変化試験が可能

※GWP:地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介①

■ 低GWP冷媒搭載 低温恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ ECOタイプを発売

- ・2024年11月、環境試験器のグローバルスタンダードモデル「プラチナスJシリーズ」よりECOタイプを発売
- ・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減、低GWP※冷媒「R-449A」搭載により温室効果ガス排出量削減に貢献



低温恒温(恒湿)器
プラチナスJシリーズ ECOタイプ

■ 低GWP冷媒搭載 急速温度変化装置を コスモピアハイテックが国内で初めて発売

- ・2024年10月、当社グループのコスモピアハイテックが国内初となる低GWP※冷媒「R-473A」搭載の急速温度変化装置を発売
- ・国際的な試験規格に適合するとともに、温室効果ガス排出量削減に貢献



急速温度変化装置
プレミアムエクセレントシリーズ
(EC-28PXHH)

※GWP:地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介②

■受託計測サービス

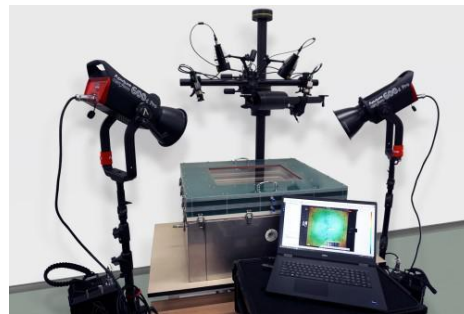
半導体パッケージや実装基板等の放熱設計や熱解析CAEの精度向上に貢献 (2025年1月拡充)

<熱変形計測サービス>

- ・半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化
- ・リフロー炉の温度環境(-40°C~+260°C)に対応
- ・300mmサイズの大型基板サイズに対応

<熱画像解析サービス>

- ・恒温環境(-40°C~+100°C)下における供試品の温度分布を可視化



熱変形計測システム

■ -70°Cでおいしく急速冷凍 超低温ショックフリーザーを発売

- ・2025年4月、-70°Cの超低温で食品を急速に冷凍し、生鮮食品も鮮度を保ちながら保存できる「超低温ショックフリーザー」を発売
- ・低風速環境下での冷凍を実現することで、食品の乾燥を防ぎながら、保存、解凍、再加熱まで1台で完結



超低温ショックフリーザー

【装置事業】環境試験器の納入事例

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入 (2018年7月)

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式になっており、試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を装備し、屋外の気象環境を再現します

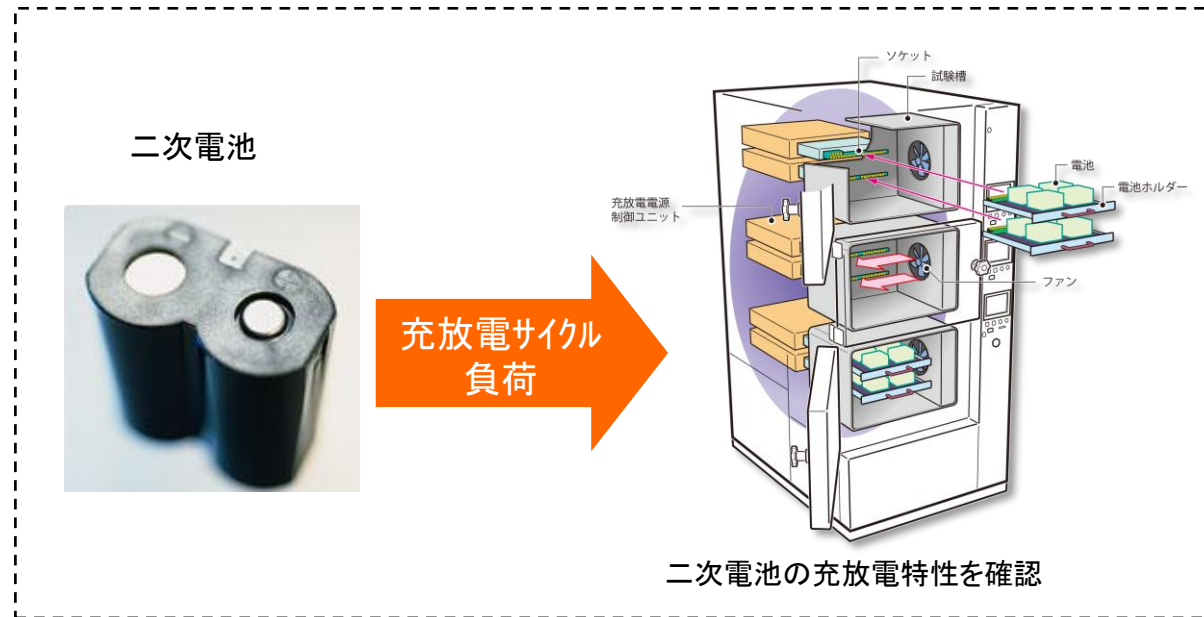
【装置事業】 エナジーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置



二次電池用充放電評価装置



<二次電池の性能や寿命を評価>

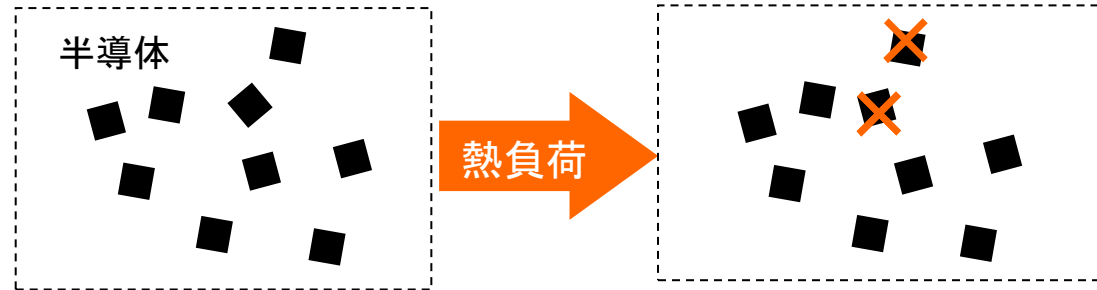
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除初期品質を確保



バーンインチャンバー



<潜在的な初期故障を除去>

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価

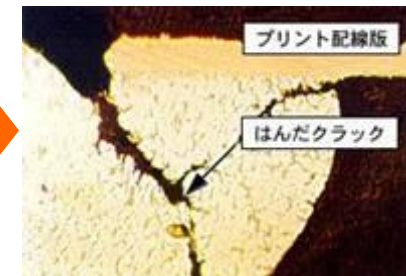


導体抵抗評価システム



熱サイクル
負荷

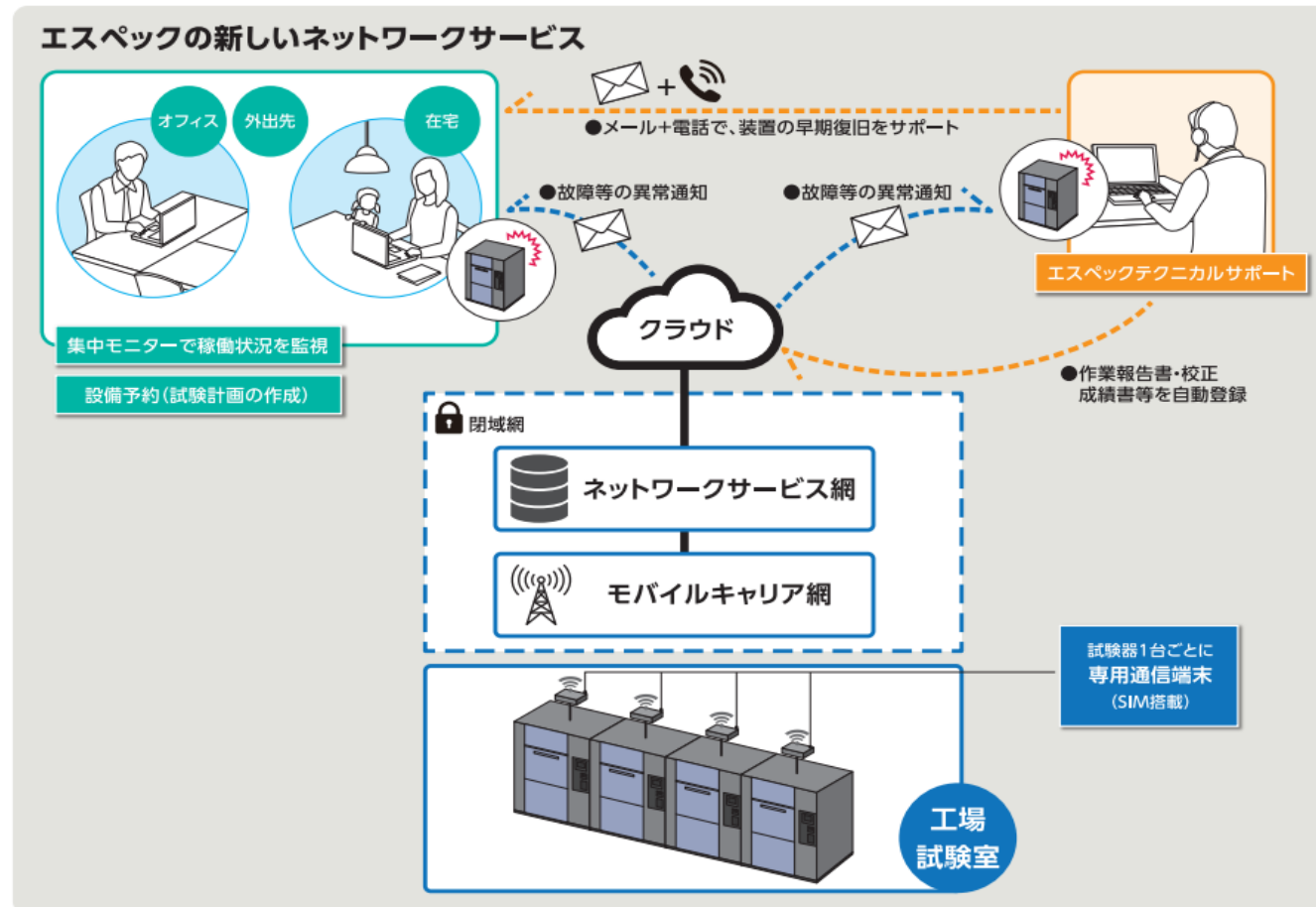
はんだ接合部分の不良例



<電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電氣的に評価>

【サービス事業】アフターサービス

モバイル通信・クラウド活用「ネットワークサービス」(2022年4月開始)
お客さまの試験・設備管理の負担軽減、装置のダウンタイムを低減



【サービス事業】受託試験サービス

自動化モジュールなど多岐にわたる 車載用電装品の試験に対応

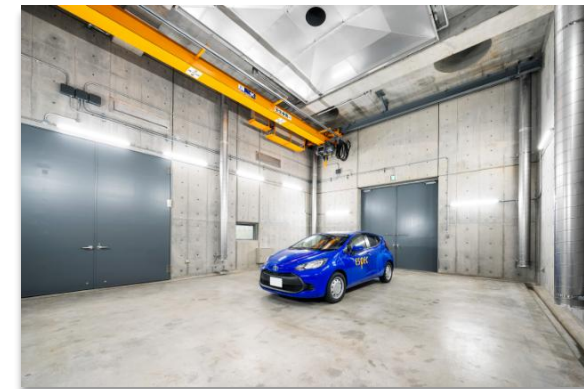
- ・2019年9月、豊田試験所にて、ドイツ自動車業界規格LV124の全試験項目に対応
- ・2025年4月、機能を拡張し、EV・自動化モジュールの動作状態での使用環境を再現し、評価・計測するサービスを新たに強化



豊田試験所(愛知県豊田市)

国内最大級 車載バッテリー専門試験所 「あいちバッテリー安全認証センター」

- ・2025年2月、あいち次世代モビリティ・テストラボ常滑サイトに開設
- ・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化、高容量化に対応



自動車が1台入る安全試験室

【その他事業】環境保全・植物育成装置

2025大阪・関西万博にて 会場の緑化およびアクアポニックス展示に協力

■会場に植物を植栽したマットや苗を提供

- ・「大屋根リング」には日本の在来種であるチガヤを植栽したマットやススキの苗を、「静けさの森」には野草や池の水際を縁取る水生植物を提供
- ・EXPOナショナルデーホールやハンガリー館、クウェート館、シグネチャーパビリオン等にも提供



大屋根リング

■「大阪ヘルスケアパビリオン」展示に協力

- ・大阪公立大学植物工場研究センターと連携し、アクアポニックスの展示に協力
- ・野菜栽培技術やノウハウを提供

アクアポニックスとは：水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせた循環型生産システム。魚類の糞尿を微生物に分解させ、野菜の生育に必要な栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または低減した野菜生産が可能。



アクアポニックス「いのちの湧水(いずみ)」

【その他事業】植物育成装置の納入事例

■鳥取大学乾燥地研究センター

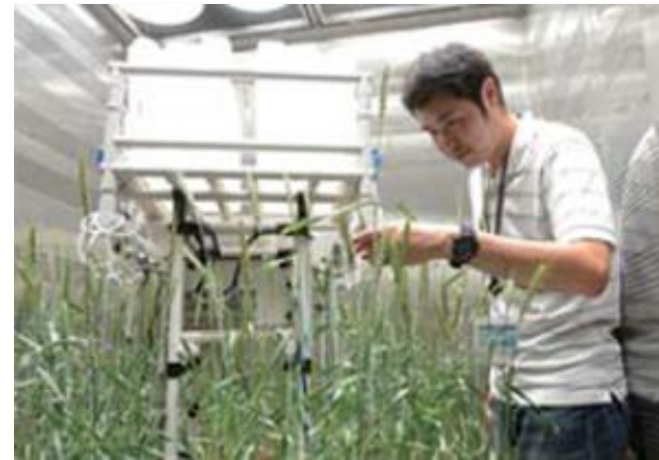
(2016年3月納入)

納入製品： 乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用途： 乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子
(小麦の乾燥ストレスを実験)

参考資料

サステナビリティの取り組み

2026年5月25日
エスペック株式会社

当社は企業理念「THE ESPEC MIND」のもと
環境創造技術をかなめとした事業で社会や環境の
課題解決に貢献し、持続的な成長を目指しています。

創業当時から伝わるエスペックの大切な価値観

企業理念「THE ESPEC MIND」(抜粋)

起 点

社会の公器として、
すべてのステークホルダーとより良い価値交換を目指す

使 命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

スタイル

プログレッシブ(進取的な)、リライアブル、オープン、フェア

宣 言

社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

サステナビリティ方針とマテリアリティ

持続的成長に向けて、サステナビリティ方針を策定し、「社会的価値」「経済的価値」を創出していくために取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定

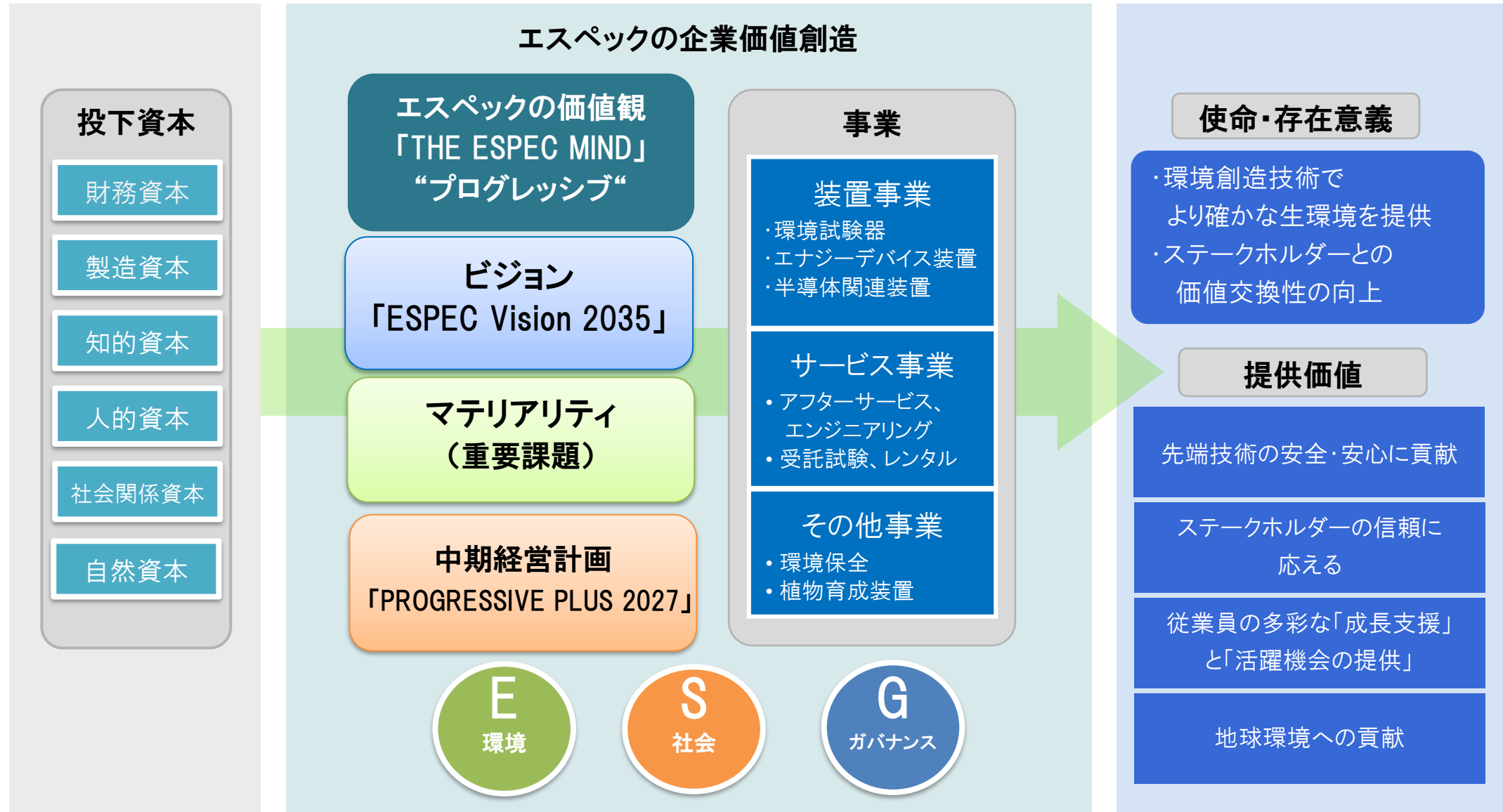
サステナビリティ方針

- 企業理念「THE ESPEC MIND」の実践により、「社会的価値」と「経済的価値」の創出と向上を図ります
- ステークホルダーとのより良い価値交換により持続的成長を目指します
- ESPEC Vision 2035のもと、「環境創造技術」をかなめとした事業活動を通じて地球環境や社会課題の解決に貢献します
- サステナビリティに関する情報開示を積極的に行います

マテリアリティ

- ・グローバルな事業を通じた社会課題解決
- ・責任ある製品サービスの提供
- ・環境への配慮
- ・多様な人材の確保・育成
- ・人権の尊重
- ・デジタル技術の活用
- ・グループガバナンスの強化

企業価値創造プロセス



装置事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献
・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を提供

●エネルギーデバイス装置

電気自動車(EV)などに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供

●半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



自動車が入る
実車試験装置



半導体検査用
バーンインチャンバー



二次電池用
充放電評価装置

サービス事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献
・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●アフターサービス・エンジニアリング

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう製品のメンテナンスや予防保全を実施

●受託試験サービス

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験サービスを提供



ITを活用したテクニカルサポート



国連規則など二次電池の各種安全性試験に対応
バッテリー安全認証センター

環境保全事業

生物多様性保全への貢献

生物多様性やCO2の固定化に貢献する「森づくり」のほか、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」、在来種による「草地づくり」など自然環境を復元する環境保全事業



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

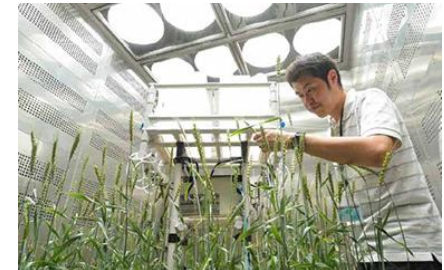
植物育成装置事業

地球温暖化や異常気象に対応した 食の安定供給への貢献

温度や光などを制御し、効率的に野菜を生産できる植物工場や研究用装置のほか、水や養分を循環させて野菜と魚を一緒に育成するアクアポニックスなどのシステムも提供



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売



乾燥地植物気候変動応答実験設備
(鳥取大学 乾燥地研究センター)

環境・エネルギー問題の解決に貢献する製品・サービス

■ 二次電池や燃料電池、太陽電池、パワーデバイスの性能や耐久性を評価する製品群



二次電池用 充放電評価装置



燃料電池用 環境試験装置



太陽電池モジュール用
温度サイクル試験システム



パワーデバイス用
パワーサイクル試験装置

■ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した「バッテリー安全認証センター」

- ・2014年10月、第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携
- ・2015年9月、栃木県宇都宮市に開設、2025年2月には愛知県常滑市にも開設

とちぎバッテリー安全認証センター
(栃木県宇都宮市)



■ 再生可能エネルギー100%による受託試験サービス(国内)

環境目標・環境中期計画

2030年度 環境目標

温室効果ガス排出量(2019年度比)

SCOPE 1+2(自社排出) 60%削減、SCOPE 3(間接排出) 30%削減

■2023年7月、国際的なSBTイニシアチブ※より「SBT(Science Based Targets)」認定を取得

※SBTイニシアチブ

パリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標の設定を推進している国際的なイニシアチブ。

CDP、UNGC(国連グローバル・コンパクト)、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)が共同で運営



第8次環境中期計画Plus II (2026年度～2027年度)

温室効果ガス排出量(2019年度比)

SCOPE 1+2(自社排出) 57%削減

<重点テーマ>

- ・地球温暖化対策(CO2削減)の強化
- ・資源循環の推進と化学物質管理の強化
- ・生物多様性保全の推進
- ・開示情報の充実

生物多様性保全の取り組み①

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター 「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

- ・社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、2つの池と小川からなるビオトープを設置
- ・2023年10月、環境省「自然共生サイト」に認定され、OECM※として国際データベースに登録
2026年4月には、「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞



「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」表彰状

※OECM (Other Effective area based Conservation Measures): 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

生物多様性保全の取り組み②

生物多様性保全活動「エスペック50年の森」

- ・2022年11月、兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくりを開始
- ・2024年4月までに全3回の植樹祭を開催
- ・2年間で社員などのべ約400名が参加、計12,000本を植樹



第3回植樹祭
苗は炭素固定・生物多様性機能をふまえて選定

エスペック地球環境研究・技術基金

- ・地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施
- ・1997年設立から27年間で、計344団体に総額1億7,391万円を助成



第28回授与式

人的資本の最大化に向けた取り組み

企業文化の良質化/組織マネジメント

- ラウンドアップ研修会、ダイレクトコミュニケーション、全社イベント、1on1ミーティング、さん付け呼称
- エンゲージメント調査、人材アセスメント、360°サーベイ
- チャレンジを生み出す評価制度

会社

- 多彩な成長支援
- 活躍機会の提供

経営戦略と連動した人材育成

- 次世代経営幹部の育成
- グローバル人材
- DX人材、デジタル人材

企業価値の向上

成長の喜びをシェア
従業員と経営が一体化し
活気にあふれている

個の成長支援

- キャリア研修
- 語学学習支援
- リカレント教育
- 通信教育

従業員

- 自律的な成長
- 働きがい

ダイバーシティ&インクルージョン 社員の健康と安全の確保

- 女性社員、シニア社員活躍推進
- 健康増進、メンタルヘルスケア
- 障がい者雇用率の向上
- 人権、ハラスメント教育

社会貢献活動

従業員参加型の寄付制度 「エスペックスマイルクラブ」

- ・従業員の寄付金に会社が寄付金を上乗せするマッチングギフト制度を活用し、子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付
- ・2026年4月、特定非営利活動法人ジャパンハートへ総額1,403,900円を寄付

※「ジャパンハート」: 国内外で無償の医療サービス提供を行う日本発祥の国際医療NGO



障がい者就労農園の収穫野菜を 子ども食堂に寄付

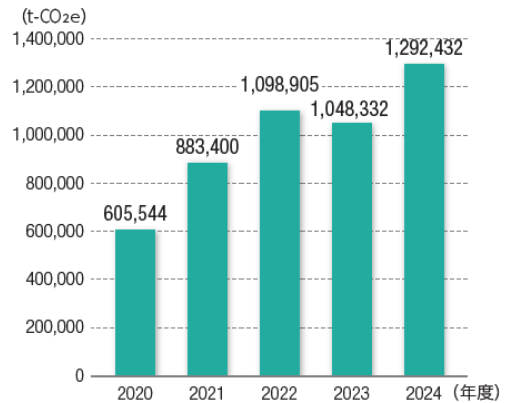
- ・障がい者就労農園「エスペックスマイルファーム」※で収穫した野菜を地域の子ども食堂へ定期的に寄付

※2021年11月、障がい者雇用支援会社が運営する貸農園内に開設。障がいのある方3名と管理業務を行う1名、計4名を採用



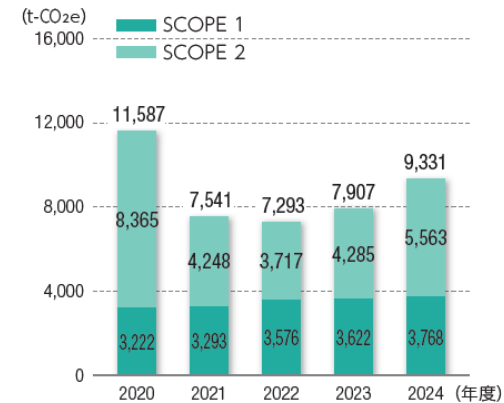
非財務データ①

温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2+3合計(連結※)

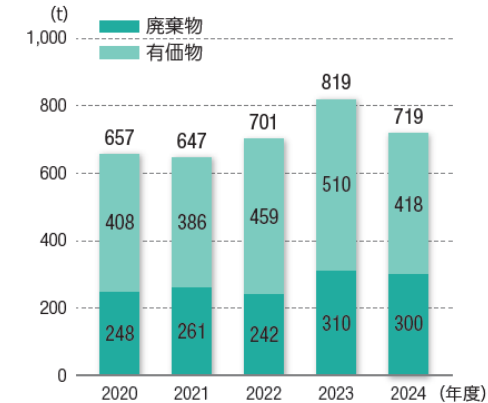


※ 2023年度は、2023年8月から連結対象となったコスモピアハイテック株式会社を除く

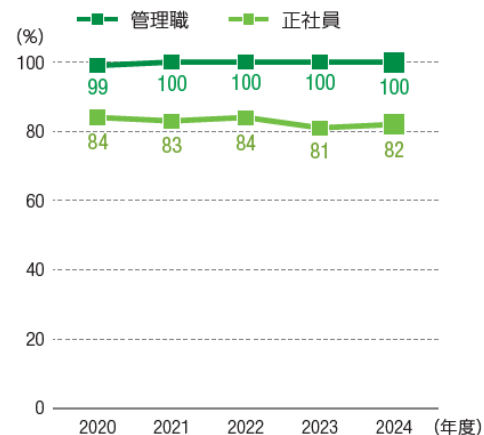
温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2 (自社排出) (連結※)



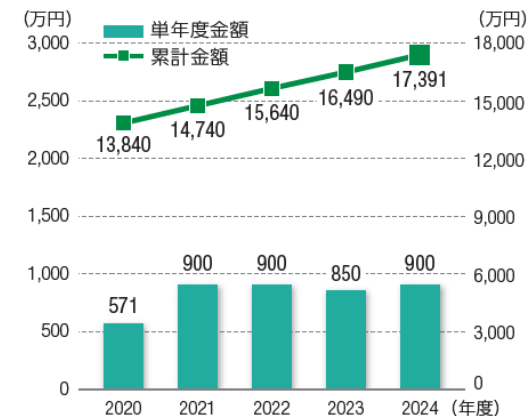
排出物総量(単体)



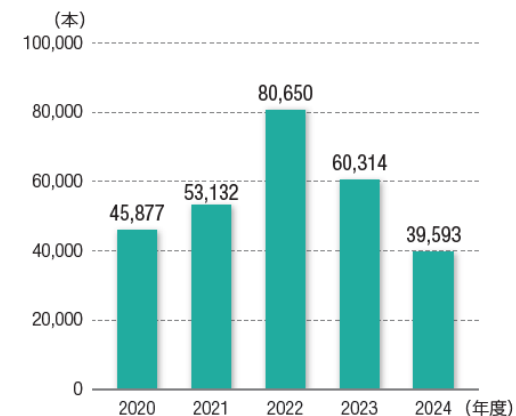
環境社会検定試験 (eco検定)
資格取得率(単体)



エスペック地球環境研究・
技術基金による助成



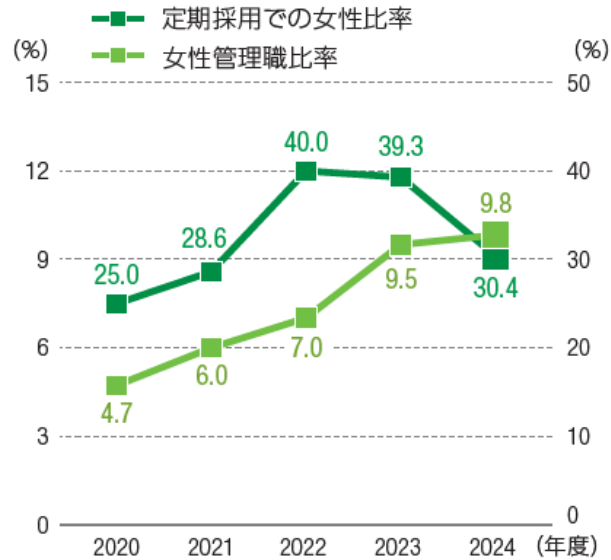
環境保全事業による植樹本数



※エスペックミック株式会社 実績

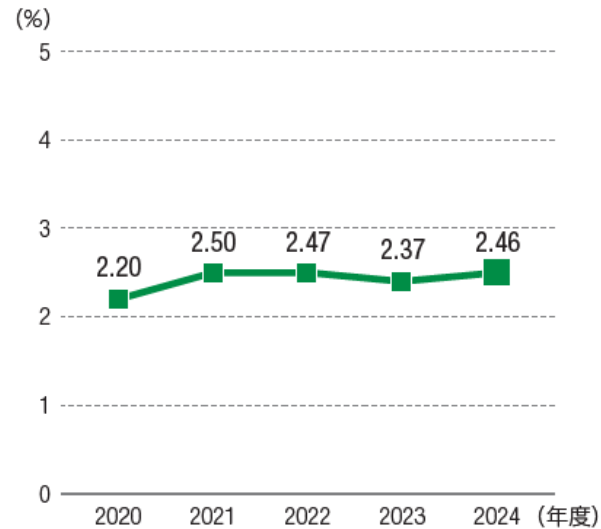
非財務データ②

女性管理職比率
定期採用での女性比率(単体)



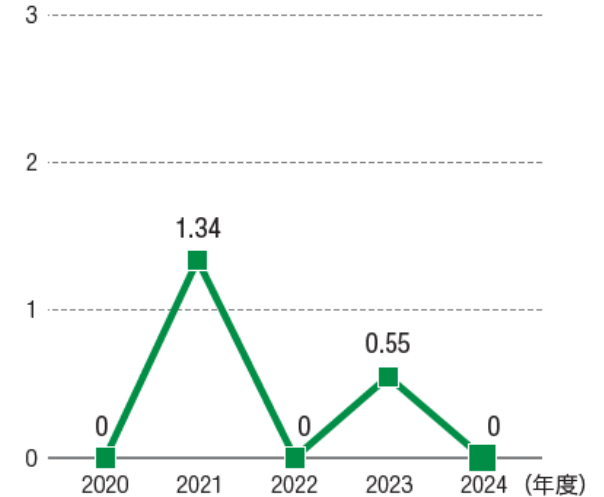
※翌年度の4月1日時点

障がい者雇用率(単体)



※各年度末時点

労働災害度数率※(単体)



※休業災害被災者数/延べ労働時間数×100万時間

非財務データ③

(年度)		2020	2021	2022	2023	2024
従業員数 ^{※1} (連結)		1,526名	1,628名	1,691名	1,775名	1,860名
従業員数 ^{※1} (単体)	男性	658名	643名	636名	633名	663名
	女性	122名	127名	142名	157名	175名
	合計	780名	770名	778名	790名	838名
平均勤続年数(単体)		19.2年	19.1年	17.2年	17.0年	15.3年
平均年齢(単体)		43.1才	43.0才	41.2才	41.4才	40.3才
離職率 ^{※2} (単体)		2.3%	1.6%	1.4%	3.3%	2.3%
平均残業時間(単体)		11.0時間	15.5時間	22.6時間	20.1時間	21.9時間
年次有給休暇取得率(単体)		65.8%	69.1%	75.1%	74.3%	77.8%
男女の平均賃金の差異(単体)		—	—	70.3%	72.5%	73.5%
育児休業取得率(単体)	男性	12.5%	30.8%	13.3%	52.9%	56.0%
	女性	100%	100%	100%	100%	100%
教育投資額(単体)		—	—	101百万円	129百万円	135百万円
労働災害件数(不休災害を除く)(単体)		0件	2件	0件	1件	0件
取締役会 ^{※3} (単体)	独立社外比率 ^{※4}	25%	25%	40%	40%	40%
	女性比率 ^{※4}	0%	0%	20%	20%	20%
内部通報件数(単体)		0件	0件	0件	1件	0件
コンプライアンス問題の発生件数(単体)		2件	1件	3件	2件	2件

※1 各年度末時点

※2 定年退職者を除く

※3 2022年6月、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行

※4 各年度6月末時点

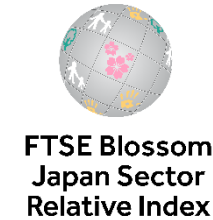
社外からの評価

■ ESG関連の評価

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で6年連続「Bスコア」、水セキュリティは2年連続「B-スコア」
「サプライヤーエンゲージメント評価」では、4年連続最高評価の
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- ・神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞
- ・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得
- ・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

- ・「Gomez IRサイトランキング」銀賞(業種別5位)
- ・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業
- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

サステナビリティ推進部 IR・広報グループ

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

E-mail ir-div@espec.jp

Quality is more than a word

ESPEC